

デジタルICプレーヤー／レコーダー 設定支援ソフト WZ-DP150, WZ-DP250用



このたびは、デジタルICプレーヤー／レコーダー WZ-DP150/250をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。

はじめに

機能概要

本設定支援ソフトは、パーソナルコンピュータ（以下、PC）上で動作する、デジタルICプレーヤー／レコーダー WZ-DP150／250専用のソフトウェアです。デジタルICプレーヤー／レコーダーのシステム設定、メッセージの作成、組合せメッセージ／プログラムメッセージの作成、運用データのバックアップやリストアを行うことができます。

設定支援ソフトで作成した運用データは、SDメモリーカードに保存してデジタルICプレーヤー／レコーダーで使用できます。

本書について

本書は、デジタルICプレーヤー／レコーダー WZ-DP150／250専用の設定支援ソフトの取扱説明書で、PDF形式で提供されます。PDFマニュアルをご覧になるには、アドビシステムズ社のAdobe Reader[®]（バージョン5以上）が必要です。

本書に記載している画面はWindows XP標準の画面を使用しています。

Windows 2000においても操作方法はWindows XPと変わりありません。

本書の構成

本書は、以下の内容で構成されています。

- **基本操作**
設定支援ソフトの基本的な操作について説明します。初めてお使いになるときは、必ずお読みください。
- **環境設定**
設定支援ソフトの設定について説明します。
- **運用データの作成**
デジタルICプレーヤー／レコーダーで使用するメッセージの作成を行う機能について説明します。
- **運用データの管理**
運用データのバックアップやリストアなど、データ管理について説明します。

動作環境

設定支援ソフトの動作環境は、以下のとおりです。

対応PC：下記対応のOS（日本語版）がインストールされたPC

対応OS：Microsoft® Windows® 2000 Professional Service Pack 4

Microsoft® Windows® XP Professional Service Pack 2

Microsoft® Windows® XP Home Edition Service Pack 2



- 上記以外のOSには設定支援ソフトをインストールすることはできません。

CPU	Intel® Pentium® III 500 MHz以上
メモリー	128 MB以上 ※OSの動作条件に依存
ディスプレイ	High Color (16-bit) 以上 解像度 1024×768ピクセル以上
ハードディスク	100 MB以上の空き領域
サウンド	Windows互換サウンドデバイス
インターフェース	SDメモリーカード（最大2 GB）が使用できること
ドライブ	CD-ROMドライブ（設定支援ソフトインストール用）
その他	Adobe Reader®（取扱説明書を閲覧するため） Microsoft® DirectX® 9.0c以降がインストールされていること



- 推奨環境のすべてのPCについて動作を保証するものではありません。
- 上記対応OS以外のWindows環境での動作は保証していません。
- 64ビットOS搭載のPCには対応していません。
- システム管理者権限（Administrator）のユーザーのみで使用可能です。
- インストールしたユーザーのみ使用可能です。
- 自作によるPCでの動作は保証していません。
- ほかのアプリケーションが同時に起動している場合は、上記条件の限りではありません。

登録商標・商標について

- ・ Microsoft、Windows（およびDirectX）は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ IntelおよびPentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の登録商標または商標です。
- ・ Adobe、Reader、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ SDロゴは商標です。
- ・ その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為には禁じられています。

免責について

- ・本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用できます。
- ・弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ①本商品に関して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ②お客様の誤使用や不注意による障害または本製品の破損など。
 - ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われたことによる損害・被害。
 - ④本商品の故障・不具合以外の何らかの理由または原因により、映像が表示などできないことによる不便・損害・被害。
 - ⑤第三者の機器などと組合せたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害。
- ・登録した内容について
本体に登録した情報内容は、メモをとるなどして保管しておいてください。万一、登録した情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

略称について

このドキュメントでは、以下の略称を使用しています。

Microsoft Windows 2000日本語版、Microsoft Windows XP 日本語版のすべてに関する説明を記載している箇所では、これらをまとめてWindowsと表記しています。

著作権のある音楽の利用手続きについて

- ・店舗などでCDやテープなどの録音物から著作権のある音楽を「BGM（店内放送）」として利用する場合は、社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）とご契約いただき、使用料のお支払いが必要となります。
- ・JASRACと契約している音源提供事業者から供給を受ける音楽については、個別にご契約いただく必要はありません。詳しい内容については、音源提供事業者におたずねください。
- ・福祉施設・病院・教育機関での利用、事務所・工場などでの主として従業員を対象とした利用については当分の間、使用料が免除されています（著作権法第38条第1項により）。詳しい内容については、JASRAC本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

用語について

本体	デジタルICプレーヤー（WZ-DP150）、デジタルICレコーダー（WZ-DP250）のことを本体と表現しています。
メッセージ	SDメモリーカードや本体の内蔵メモリーに録音されている音声や音楽をメッセージと表現しています。
放送イベント	メッセージを放送するための動作を放送イベントと表現しています。 たとえば、前面パネルのボタン操作による放送や接点制御入力による放送を放送イベントと呼びます。
組合せメッセージ	複数のメッセージを組合せて1つの放送イベントで連続して放送するように設定したものを組合せメッセージと表現しています。
プログラムメッセージ	複数のメッセージを組合せて1種類の放送イベントで次々と放送するように設定したものをプログラムメッセージと表現しています。詳しくは「組合せメッセージ／プログラムメッセージについて」（42ページ）をお読みください。
ステップ	組合せメッセージやプログラムメッセージの1つの単位を指します。メッセージと無音区間をまとめてステップと表現しています。
無音区間	組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージとメッセージの間に無音を挿入できます。
メッセージ番号	SDメモリーカードや本体の内蔵メモリーに録音されているメッセージには、番号がつけられており、その番号をメッセージ番号と表現しています。
運用データ	本体が動作するために必要なデータのことです。各種設定情報やメッセージなどを含めて、運用データと表現しています。
バックアップ	運用データのコピーをPCに保存する機能のことを指します。大切な運用データはPC上にバックアップすることをお勧めします。
リストア	バックアップした運用データをSDメモリーカードに復元する機能です。リストアされた運用データはSDメモリーカードを本体に差し込むだけで実行されます。
ライブラリ	設定支援ソフトで使用する音源ファイルを保存するフォルダです。PC内の音源ファイルをメッセージに登録する場合は、事前に音源ファイルをライブラリに登録する必要があります。
モード変換	音源ファイルの録音方式（音源ファイルの圧縮方法）の変換を行う機能です。
トリミング	音源ファイルの開始位置と終了位置を指定し、指定した区間の音源ファイルを新たに作成する機能です。本体で録音した音源ファイルの無音区間を削除するときにお使いください。

その他

MPEG Audio Layer3音声圧縮技術はFraunhofer IISおよびThomson multimediaからライセンスを受けています。

記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

機能概要	2
本書について	2
本書の構成	2
動作環境	3
登録商標・商標について	3
著作権について	4
免責について	4
略称について	4
著作権のある音楽の利用手続きについて	4
用語について	5
その他	5
記号のみかた	5

基本操作

基本操作	8
SDメモリーカードについて	8
画面構成について	9
インストール	10
アンインストール	12
設定支援ソフトを起動する	13
設定支援ソフトを終了する	14
メニュー操作のしかた	15

環境設定

環境設定	16
環境設定のしかた	16
バックアップフォルダについて	17
ライブラリについて	18

運用データの作成

運用データの作成	21
運用データの流れ	21
運用データ作成の流れ	22
運用データ編集画面について	23
運用データの新規作成	26
運用データの読み込み	27
運用データの保存	28
運用データのCSV保存	29
メッセージについて	30
メッセージ作成の流れ	31
ライブラリの登録	32
メッセージの作成	34
組合せメッセージ/プログラムメッセージについて	42
組合せメッセージ/プログラムメッセージの動作	42
組合せメッセージ/プログラムメッセージの作成	43
機能ボタン/接点制御入力の設定	51
システムの設定	54
その他の機能	57
音源加工	57
運用データの整合性チェックと自動修正	61
音源ファイル/メッセージの試聴	62
運用データの管理	66
運用データの管理	66
本体でバックアップした運用データのリストア方法について	71
設定情報やメッセージの合計サイズの確認方法について	73

必要なとき

付録	75
音源ファイルについて	75
故障かな!?	76

基本操作

SDメモリーカードについて

- ・SDメモリーカード（動作確認済み）：パナソニック株式会社製（64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB）
- ・SDメモリーカードは書き込み禁止スイッチを備えています。ご使用の際は「LOCK」を解除してください。
- ・miniSDカード、microSDカード、SDHCメモリーカード、マルチメディアカードは使用できません。

●SDメモリーカードを接続する

お使いのSDカードリーダーライターをパソコンに接続し、SDメモリーカードを取り付けてください。

1 PCの電源を入れて、Windowsを起動する

2 SDカードリーダーライターをパソコンに接続する

Windowsのエクスプローラーなどで、SDカードリーダーライターが認識されていることを確認してください。

3 SDメモリーカードの方向を確認して、SDカードリーダーライターに取り付ける

SDメモリーカードを逆向きに取り付けると、SDメモリーカードリーダーライターやSDメモリーカードが破損する場合があります。

●SDメモリーカードを取り外す

SDメモリーカードを取り外す場合は、下記の手順にしたがって取り外してください。

1 SDカードリーダーライターがSDメモリーカードにアクセスしていないことを確認する

2 [マイコンピュータ] をダブルクリックし、SDメモリーカードを示す [リムーバブルディスク] のアイコンを右クリックする

3 [取り出し] をクリックする

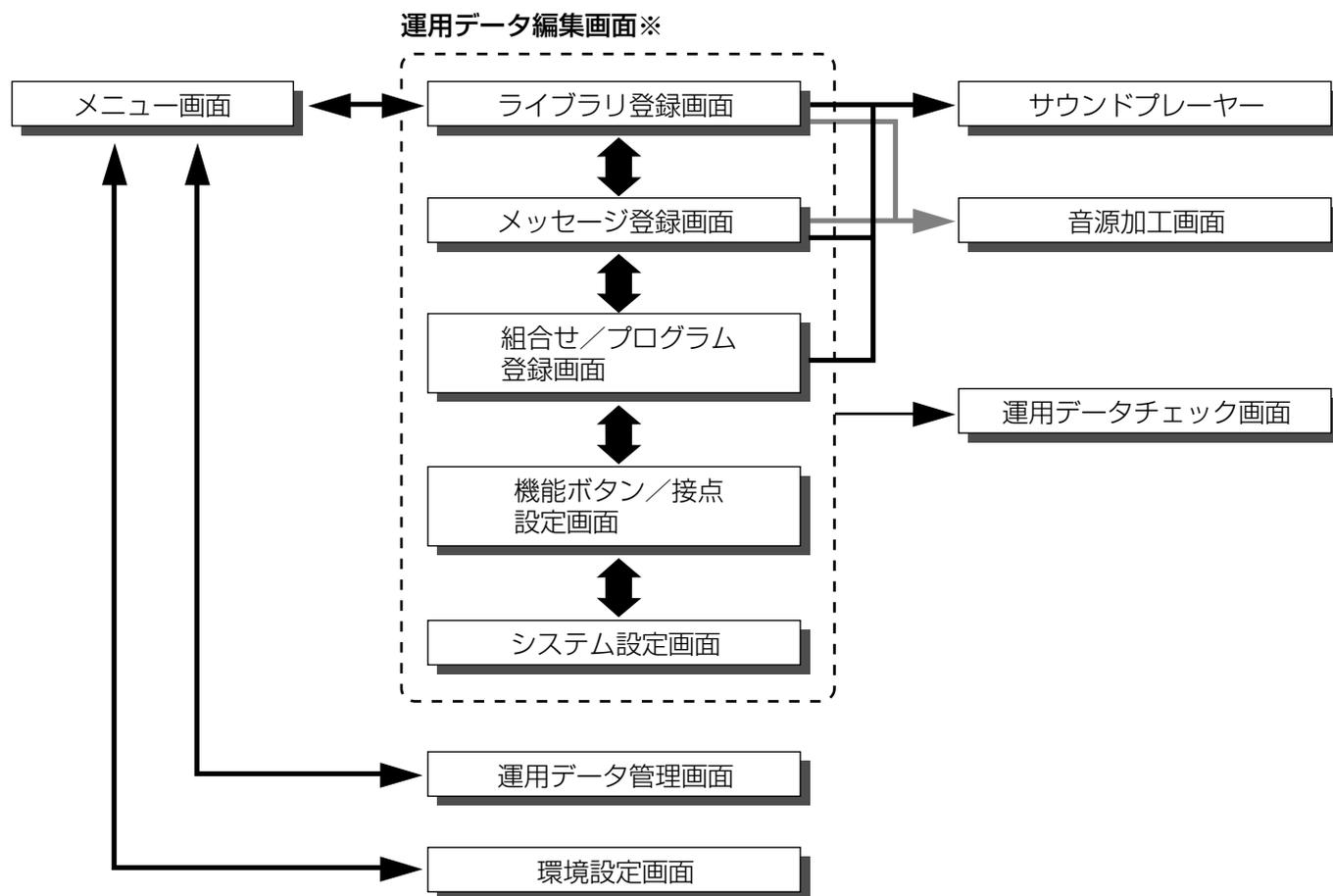
4 SDメモリーカードを取り外す



- SDメモリーカードを取り外すときは、必ず設定支援ソフトを終了してから取り外してください。設定支援ソフトを終了せずにSDメモリーカードを取り外すとデータを破損することがあります。

画面構成について

設定支援ソフトの画面構成について説明します。



※本取扱説明書ではライブラリ登録画面、メッセージ登録画面、組合せ/プログラム登録画面、機能ボタン/接点設定画面、システム設定画面を総称して運用データ編集画面と記します。

インストール

設定支援ソフトのインストール手順を説明します。

設定支援ソフトをインストールするには、ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みになり、同意していただける場合のみ、インストールしてください。

1 PCの電源を入れ、Windowsを起動する

2 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる

Windowsのスタートメニューで「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「*:¥WZ-DP150_250¥setup.exe」と入力し、「OK」をクリックします。

*部分はCD-ROMドライブのIDです。(例：CD-ROMドライブがDドライブの場合、「D:¥WZ-DP150_250¥setup.exe」) セットアップウィザードが表示されます。

3 [次へ] をクリックする

使用許諾画面が表示されます。



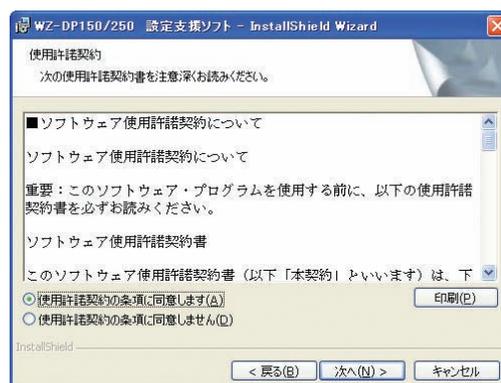
- インストールを中止する場合は、[キャンセル] を押してください。



4 「使用許諾」をよく読み、使用許諾に同意する場合は「使用許諾契約書の条項に同意します」をチェックし、[次へ] をクリックする

インストールが開始されます。

インストールが終了するとセットアップの終了画面が表示されます。



5 [完了] をクリックする

セットアップの終了画面を閉じます。



- インストールが完了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが自動的に作成されます。また、「スタート」 - 「プログラム」メニューにショートカットが自動的に作成されます。



6 CD-ROMドライブから付属のCD-ROMを取り出す



- インストール完了後、初めて設定支援ソフトをご使用する際は、必ず環境設定（16ページ）を行ってください。
-

アンインストール

設定支援ソフトのアンインストール手順を説明します。

1 「コントロールパネル」を表示する

Windowsの「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選びます。

Windows2000をご使用の場合は、「スタート」メニューから「設定」を選択し、続けて「コントロールパネル」を選択します。

2 「プログラムの追加と削除」をクリック

プログラムの追加と削除画面が表示されます。

Windows2000をご使用の場合は、「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。

3 「WZ-DP150/250設定支援ソフト」をクリックし、 「削除」をクリックする

確認画面が表示されます。



4 「はい」をクリックする

「WZ-DP150/250設定支援ソフト」が削除されます。



- 確認画面で「はい」をクリックすると、アンインストールを中止します。



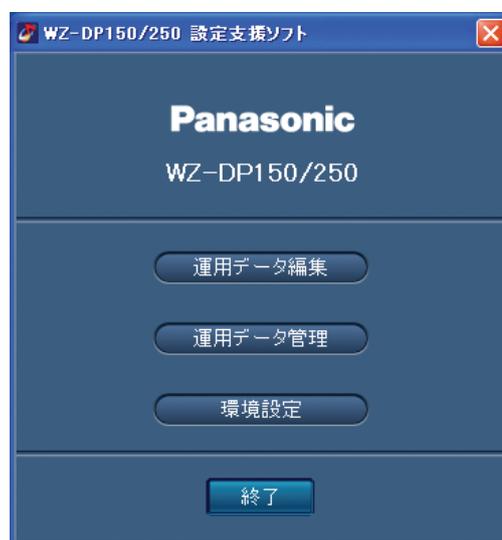
設定支援ソフトを起動する

設定支援ソフトの起動方法を説明します。

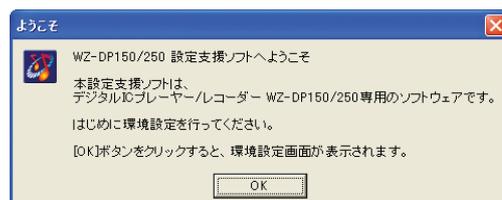
- 1 スタートメニューの「プログラム」から「WZ-DP150/250 設定支援ソフト」をクリックする
起動画面が数秒間表示されたあと、メニュー画面が表示されます。



- デスクトップ上の [WZ-DP150/250 設定支援ソフト] の  アイコンをダブルクリックして、設定支援ソフトを起動できます。



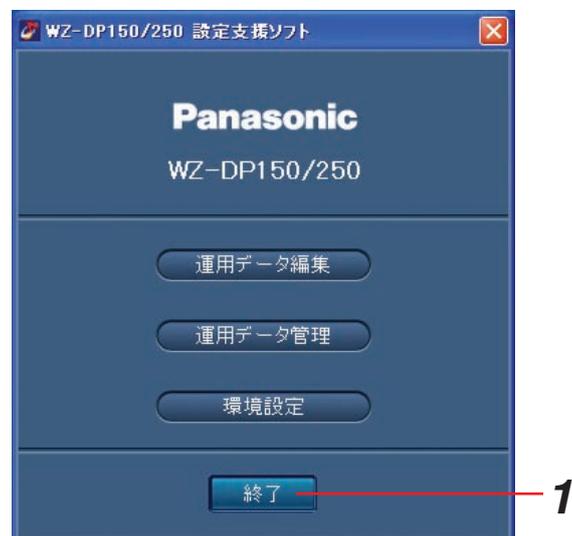
- インストール後、初めて起動したときは、起動時に「ようこそ画面」が表示されます。「ようこそ画面」の [OK] ボタンをクリックすると環境設定画面（16ページ）が表示されます。設定支援ソフトを初めてご使用のときは必ず環境設定を行ってください。



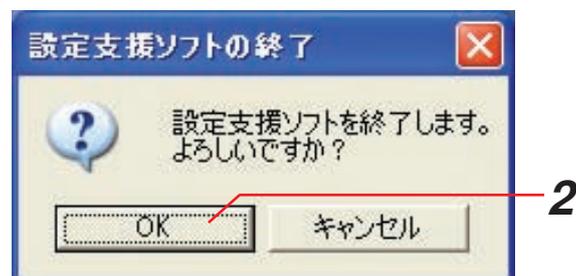
設定支援ソフトを終了する

設定支援ソフトの終了方法を以下に説明します。

- 1 メニュー画面の【終了】ボタンをクリックする
終了確認画面が表示されます。



- 2 【OK】ボタンをクリックする
設定支援ソフトが終了します。
【キャンセル】ボタンを押すと、元の画面に戻ります。



メニュー操作のしかた

設定支援ソフトの起動後、メニューから機能選択を行います。

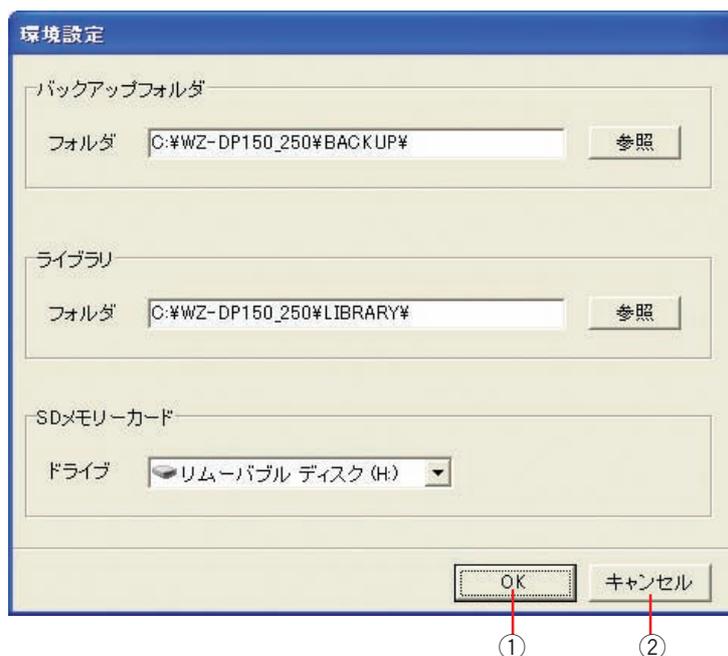


番号	ボタン名称	説明	参照ページ
①	[運用データ編集] ボタン	運用データ編集画面が表示されます。 運用データの作成や編集を行います。	23
②	[運用データ管理] ボタン	運用データ管理画面が表示されます。 バックアップやリストアなど運用データの管理を行います。	66
③	[環境設定] ボタン	環境設定画面が表示されます。 設定支援ソフトの動作環境を設定します。 設定支援ソフトを初めて使用する場合は必ず設定してください。	16
④	[終了] ボタン	設定支援ソフトを終了します。	14

環境設定

環境設定のしかた

環境設定画面はメニュー画面で「環境設定」ボタンをクリックすると表示されます。
設定支援ソフトで使用するバックアップフォルダ、ライブラリ、SDメモリーカードの設定を行います。
お使いのPC環境にあわせて環境設定を行ってください。
設定支援ソフトを初めてご使用のときは必ず環境設定を行ってください。



番号	ボタン名称	説明
①	[OK] ボタン	環境設定画面で変更した内容を反映して画面を終了します。
②	[キャンセル] ボタン	環境設定画面で変更した内容を反映せずに画面を終了します。

設定できる内容は下記のとおりです。

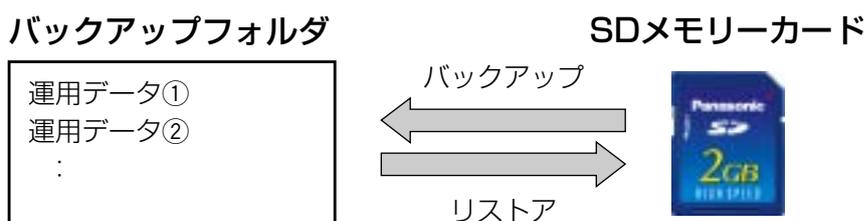
項目	説明
バックアップフォルダ	バックアップフォルダのフォルダパスを設定します。バックアップフォルダは運用データをバックアップしたときに運用データが保存されるフォルダです。
ライブラリ	ライブラリのフォルダパスを設定します。ライブラリは設定支援ソフトで使用する音源ファイルを保存するフォルダです。
SDメモリーカード	お使いのSDメモリーカードリーダーライターのドライブを選択します。



- バックアップフォルダやライブラリの設定はあらかじめフォルダを作成してから行ってください。
- SDメモリーカードのドライブはお使いのPCによって異なります。
- バックアップフォルダの初期設定は、「[インストールドライブ] ¥WZ-DP150_250¥BACKUP」となります。
- ライブラリの初期設定は「[インストールドライブ] ¥WZ-DP150_250¥LIBRARY」となります。

バックアップフォルダについて

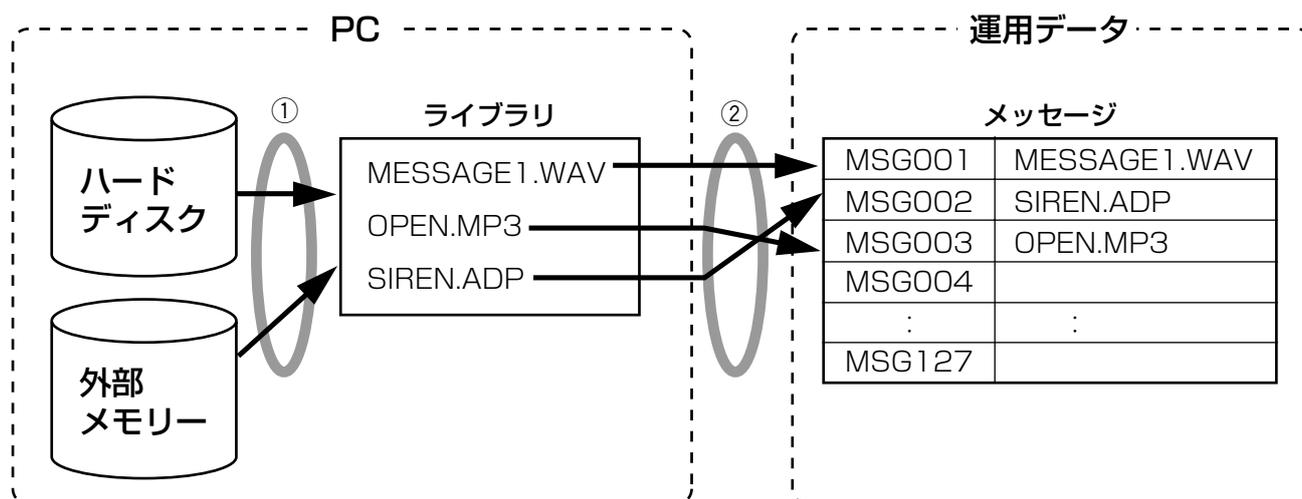
- ・バックアップフォルダはバックアップした運用データを保存するフォルダです。
- ・SDメモリーカードにある運用データをバックアップフォルダにバックアップできます。
大切な運用データはバックアップすることをお勧めします。
- ・バックアップした運用データを本体で使用する場合は、設定支援ソフトでSDメモリーカードにリストアしてください。SDメモリーカードにリストアした運用データは本体で実行できます。



- バックアップフォルダには運用データが保存されます。フォルダパスを設定するときは十分な空き容量があるドライブを選択してください。

ライブラリについて

- ・ライブラリは設定支援ソフトで使用する音源ファイルを保存するフォルダです。ライブラリにある音源ファイルはメッセージに登録できます。
- ・ハードディスクや外部メモリーなどPC上の音源ファイルをメッセージとして使用する場合は、音源ファイルをライブラリに登録してください。



①PC上の音源ファイルをライブラリに登録する。

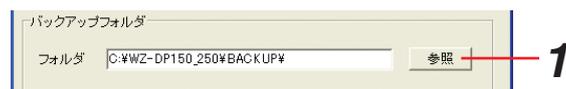
②ライブラリに登録されている音源ファイルをメッセージに登録する。



- ライブラリには音源ファイルが保存されます。フォルダパスを設定するときは十分な空き容量があるドライブを選択してください。

1 「バックアップフォルダ」の「参照」ボタンをクリックする

フォルダ選択画面が表示されます。



2 フォルダを選択して「OK」ボタンをクリックする

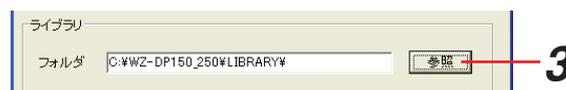
フォルダ選択画面が閉じます。

環境設定画面のバックアップフォルダに、選択したフォルダが表示されます。



3 「ライブラリ」の「参照」ボタンをクリックする

フォルダ選択画面が表示されます。



4 フォルダを選択して「OK」ボタンをクリックする

フォルダ選択画面が閉じます。

環境設定画面のライブラリに、選択したフォルダが表示されます。



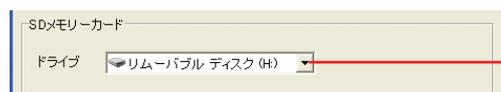
5 ドライブ選択エリアの「▼」ボタンをクリックして、SDメモリーカードリーダーライターのドライブを選択する

選択したドライブがドライブ選択エリアに表示されます。

設定支援ソフトは、選択したドライブをSDメモリーカードとして認識します。



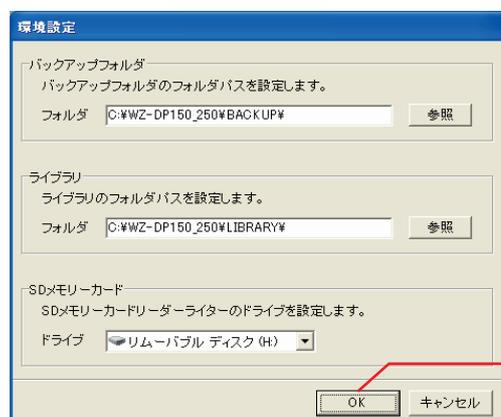
- ドライブ選択エリアにSDメモリーカードリーダーライターのドライブが表示されない場合は、再度、接続をご確認ください。



5

6 [OK] ボタンをクリックする

設定した内容が反映され、メニュー画面に戻ります。

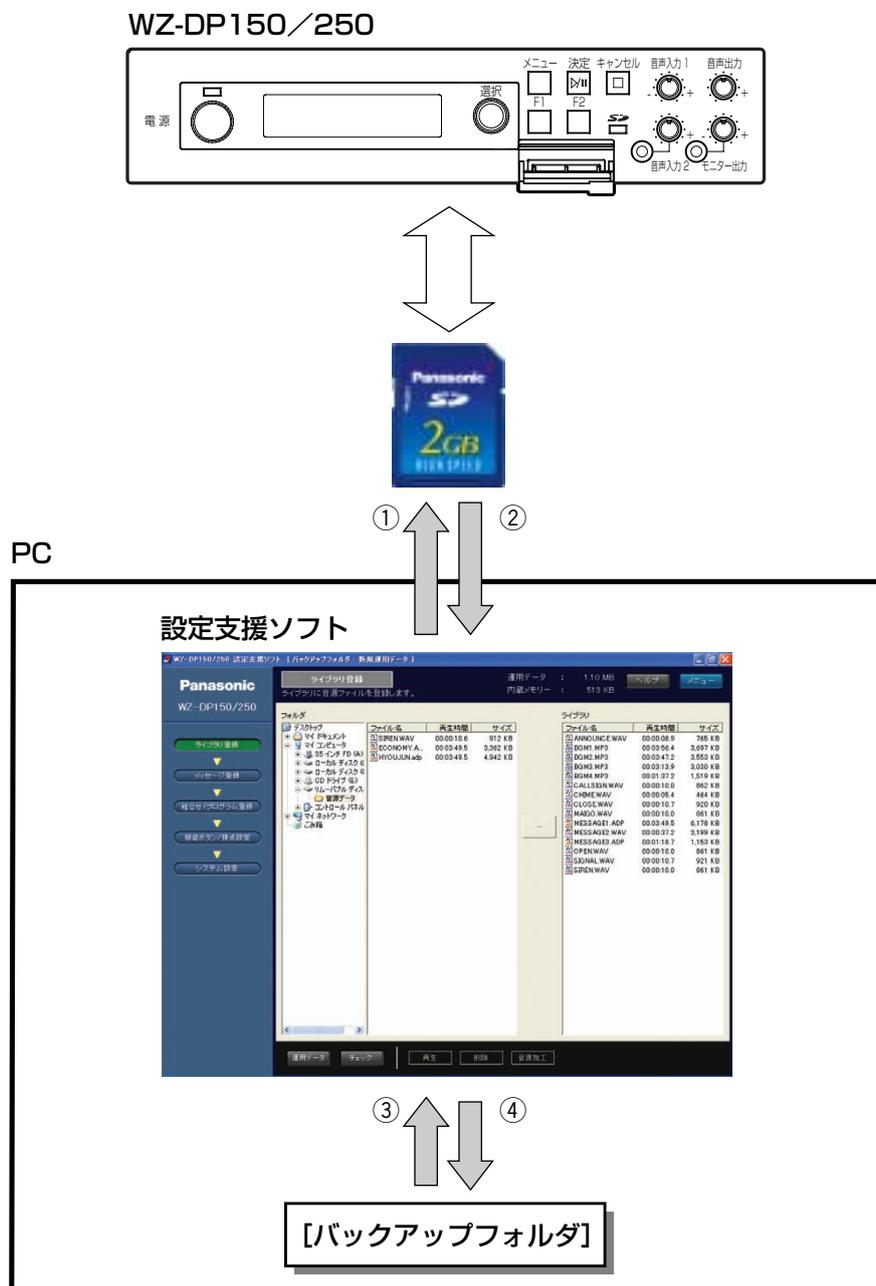


6

運用データの作成

運用データの流れ

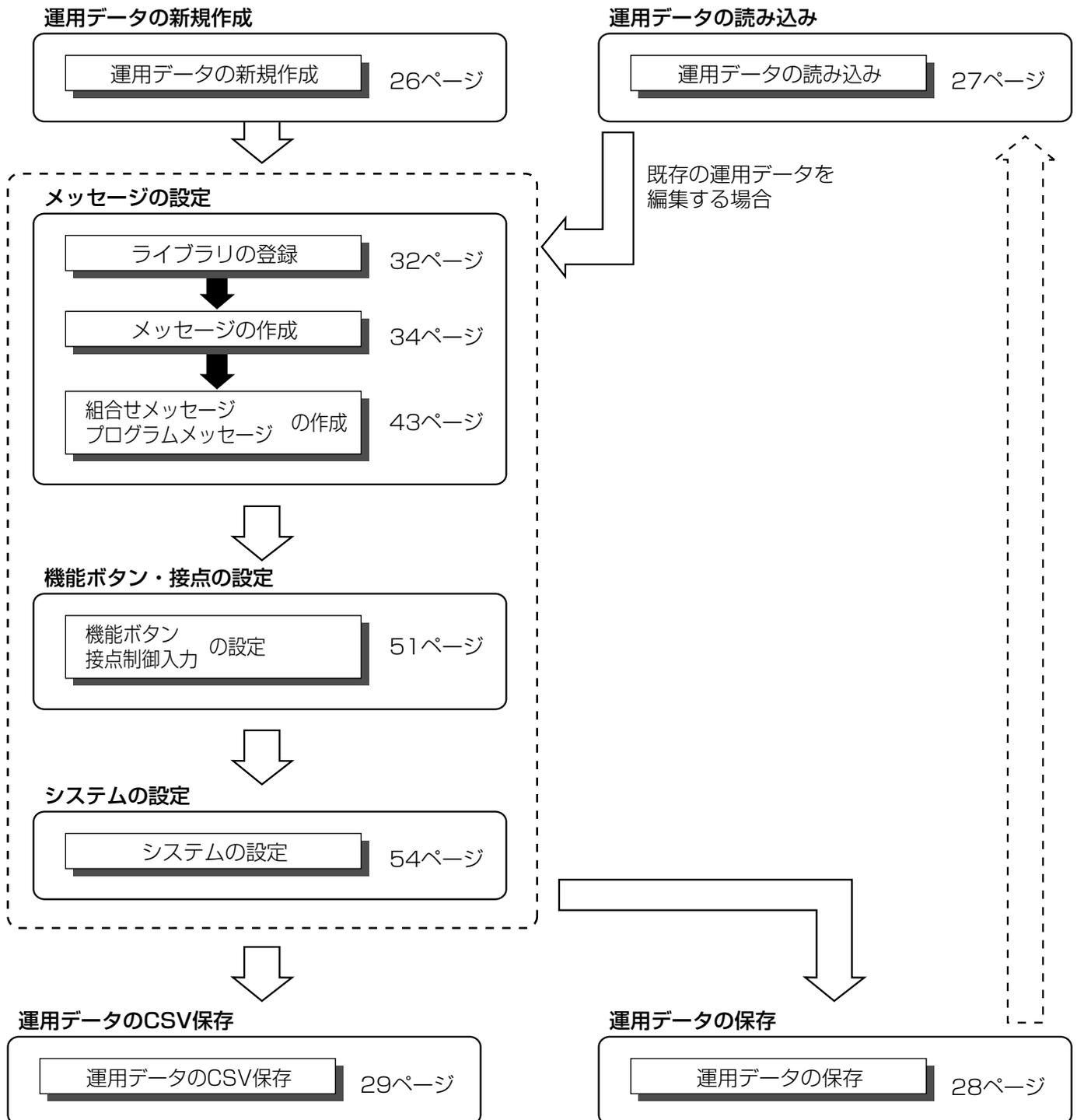
基本的な運用データの流れについて説明します。



- ① 設定支援ソフトで作成した運用データはSDメモリーカードに保存して、本体で使用できます。
- ② 本体で使用している運用データはSDメモリーカードに保存して、設定支援ソフトで編集できます。
- ③ バックアップフォルダに保存されている運用データを設定支援ソフトで編集できます。
- ④ 設定支援ソフトで編集中の運用データをバックアップフォルダに保存できます。

運用データ作成の流れ

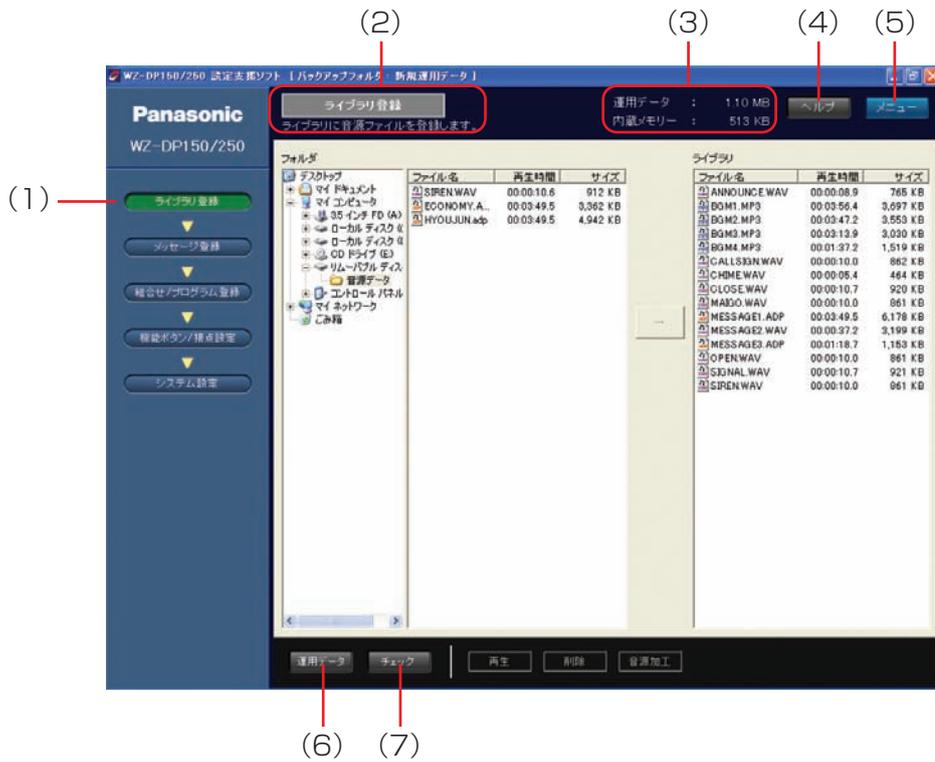
運用データの作成機能では、メッセージの作成や各種設定を行います。
ここでは運用データの流れについて説明します。



運用データ編集画面について

本取扱説明書では、ライブラリ登録画面、メッセージ登録画面、組合せ/プログラム登録画面、機能ボタン/接点設定画面、システム設定画面を総称して運用データ編集画面と記しています。

運用データを編集する各画面について、共通の内容を説明します。



(1) 設定項目選択ボタン

設定項目選択ボタンをクリックするとボタンに応じた画面が表示されます。

ボタン名称	説明	参照ページ
ライブラリ登録	ライブラリ登録画面を表示します。ライブラリ登録画面ではライブラリに音源ファイルを登録します。	32
メッセージ登録	メッセージ登録画面を表示します。メッセージ登録画面では、メッセージを作成・設定します。	34
組合せ/ プログラム登録	組合せ/プログラム登録画面を表示します。組合せ/プログラム登録画面では、組合せメッセージやプログラムメッセージを作成・設定します。	43
機能ボタン/ 接点設定	機能ボタン/接点設定画面を表示します。機能ボタン/接点設定画面では、機能ボタンや接点を設定します。	51
システム設定	システム設定画面を表示します。システム設定画面では、本体の動作に関する設定をします。	54

(2) 設定項目表示

(1) 設定項目選択ボタンで選択した項目と説明が表示されます。

(3) 容量表示

運用データと内蔵メモリーに書き込むデータのサイズが表示されます。

項目	説明
運用データ	編集中の運用データサイズを表示します。SDメモリーカードにリストアするときは、ここで表示されているサイズの運用データをSDメモリーカードにコピーします。 ご使用のSDメモリーカードの容量を超えないように、運用データサイズを調節してください。
内蔵メモリー	編集中の運用データの中で、本体の内蔵メモリーに書き込むデータサイズを表示します。内蔵メモリーに書き込むことができるデータの上限は8 MBです。

(4) [ヘルプ] ボタン

設定支援ソフトの取扱説明書が表示されます。取扱説明書の閲覧にはAdobe AcrobatあるいはAdobe Readerが必要です。

(5) [メニュー] ボタン

メニュー画面に戻ります。

(6) [運用データ] ボタン

[運用データ] ボタンの上にメニューが表示されます。

新規作成(N)	Ctrl+N
開く(O)	Ctrl+O
保存(S)	Ctrl+S
CSV保存(W)	Ctrl+W

ボタン名称	説明	参照ページ
新規作成	運用データを新規作成します。	26
開く	SDメモリーカードあるいはバックアップフォルダ内の運用データを開きます。	27
保存	編集中の運用データを保存します。	28
CSV保存	運用データの内容をCSV形式のファイルで保存します。	29

(7) [チェック] ボタン

編集中の運用データに不整合があるかチェックします。チェックした結果、運用データに不整合がある場合は自動的に修正できます。(61ページ)

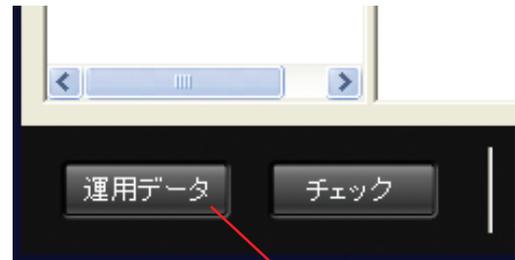
運用データの新規作成

運用データを新規作成します。

操作手順

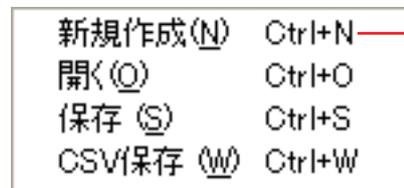
1 運用データ編集画面で [運用データ] ボタンをクリックする

[運用データ] ボタンの上にメニュー画面が表示されます。

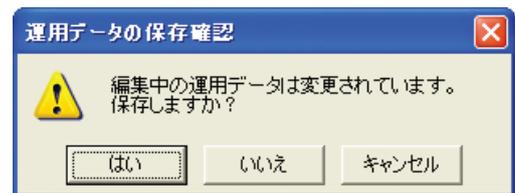


2 メニュー画面の [新規作成] をクリックする

運用データが新規に作成されます。



- 運用データを編集している状態で新規作成した場合は、保存確認画面が表示されます。運用データを新規作成する前に、編集中の運用データを保存できます。



運用データ新規作成時には、内蔵メモリーに以下のメッセージが自動的に登録されます。メッセージは初期状態でプロテクトがされています。

メッセージ番号	音源	メッセージ名称	ファイル名
MSG001	ウェストミンスターの鐘	ウェストミンスター	MSG001.MP3
MSG002	ウェストミンスターの鐘+重音	ウェストミンスタージュウオン	MSG002.MP3
MSG003	重音	ジュウオン	MSG003.MP3
MSG004	おもいで	オモイデ	MSG004.MP3
MSG005	ラジオ体操第一	ラジオタイソウダイイチ	MSG005.MP3
MSG006	蛍の光	ホタルノヒカリ	MSG006.MP3
MSG007	コールサイン上り	コールサインノボリ	MSG007.MP3
MSG008	コールサイン下り	コールサインクダリ	MSG008.MP3



- 内蔵メモリーのメッセージは、本体および設定支援ソフトで使用する場合のみ、使用許諾されています。その他の用途では使用しないでください。

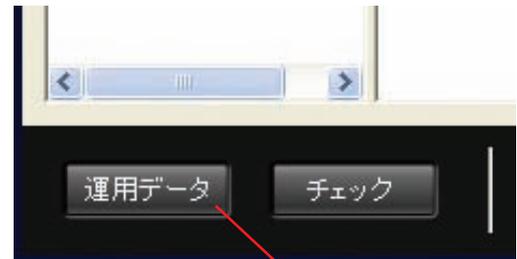
運用データの読み込み

SDメモリーカードやバックアップフォルダの運用データを読み込む方法を説明します。

操作手順

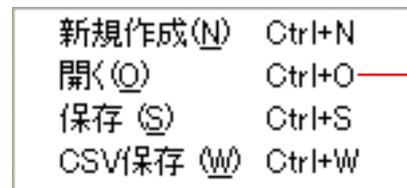
1 運用データ編集画面で [運用データ] ボタンをクリックする

[運用データ] ボタンの上にメニュー画面が表示されます。

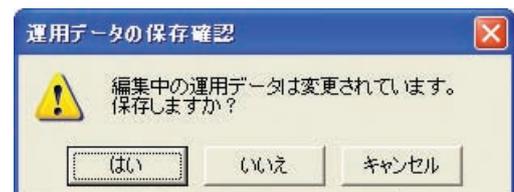


2 メニュー画面の [開く] をクリックする

運用データ選択画面が表示されます。



- 運用データを編集している状態で運用データを読み込む場合は、保存確認画面が表示されます。
運用データを読み込む前に、編集中の運用データを保存できます。



3 運用データを選択し、[開く] ボタンをクリックする

選択した運用データを読み込み、運用データ編集画面に戻ります。



- 運用データの読み込みは数分かかることがあります。

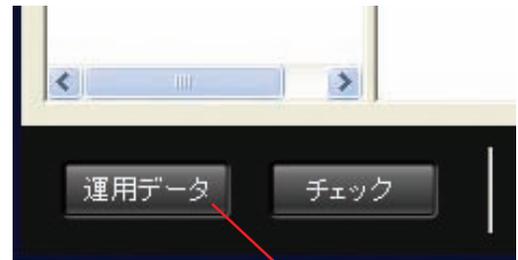
運用データの保存

編集中の運用データをSDメモリーカードやバックアップフォルダに保存する方法を以下に説明します。

操作手順

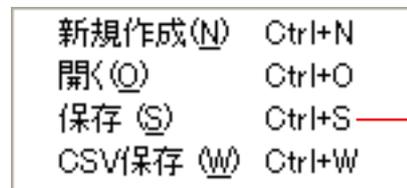
1 運用データ編集画面で「運用データ」ボタンをクリックする

「運用データ」ボタンの上にメニュー画面が表示されます。



2 メニュー画面の「保存」をクリックする

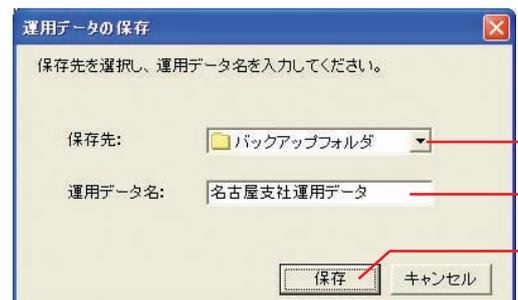
運用データ保存画面が表示されます。



3 保存先と運用データ名を入力し、「保存」ボタンをクリックする。

保存先は「SDメモリーカード」あるいは「バックアップフォルダ」から選択できます。

選択した保存先に運用データが保存され、運用データ編集画面に戻ります。



- 保存先にSDメモリーカードを選択した場合は、運用データ名を入力できません。
- 運用データをSDメモリーカードに保存した場合は、保存した運用データが本体で実行されます。

運用データのCSV保存

編集中の運用データをCSV形式のファイルで保存する方法を以下に説明します。

CSVは、カンマで区切られた定型のテキスト形式ファイルです。表計算ソフト（Microsoft Excelなど）でファイルを読み込んで、運用データの設定を一覧で表示できます。

操作手順

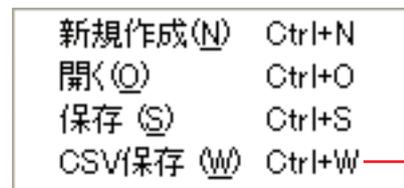
1 運用データ編集画面で【運用データ】ボタンをクリックする

【運用データ】ボタンの上にメニュー画面が表示されます。

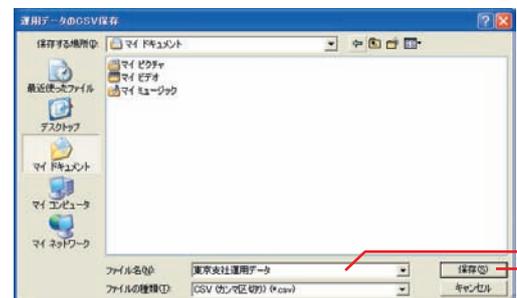


2 メニュー画面の【CSV保存】をクリックする

運用データCSV保存画面が表示されます。



3 ファイル名を入力し、【保存】ボタンをクリックする
指定したフォルダに運用データのCSVファイルが作成されます。

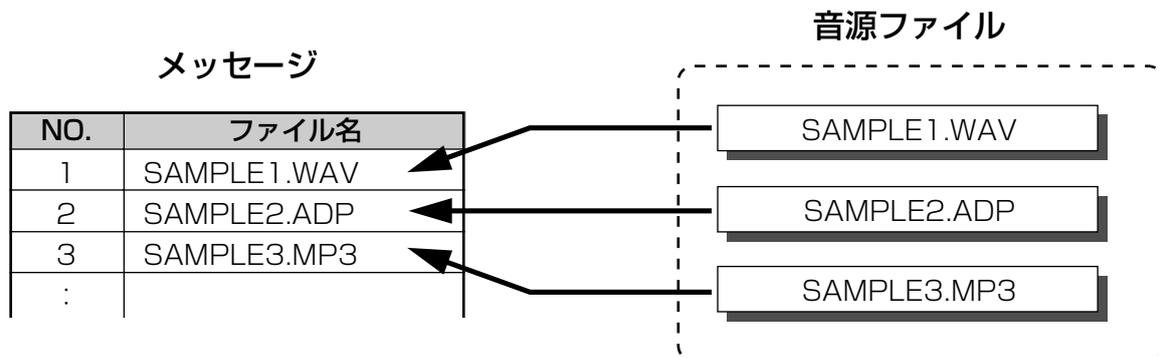


- CSVファイルは設定支援ソフトおよび本体での読み込みはできません。

メッセージについて

設定支援ソフトでは、メッセージに音源ファイルを割り当てることで、音源ファイルをメッセージとして管理します。メッセージに割り当てられた音源ファイルは本体で再生できます。

メッセージに割り当てられる音源ファイルは、ライブラリおよび編集集中の運用データにあるメッセージ保存領域の音源ファイルです。



メッセージに割り当てることができる音声データ形式は下表のとおりです。

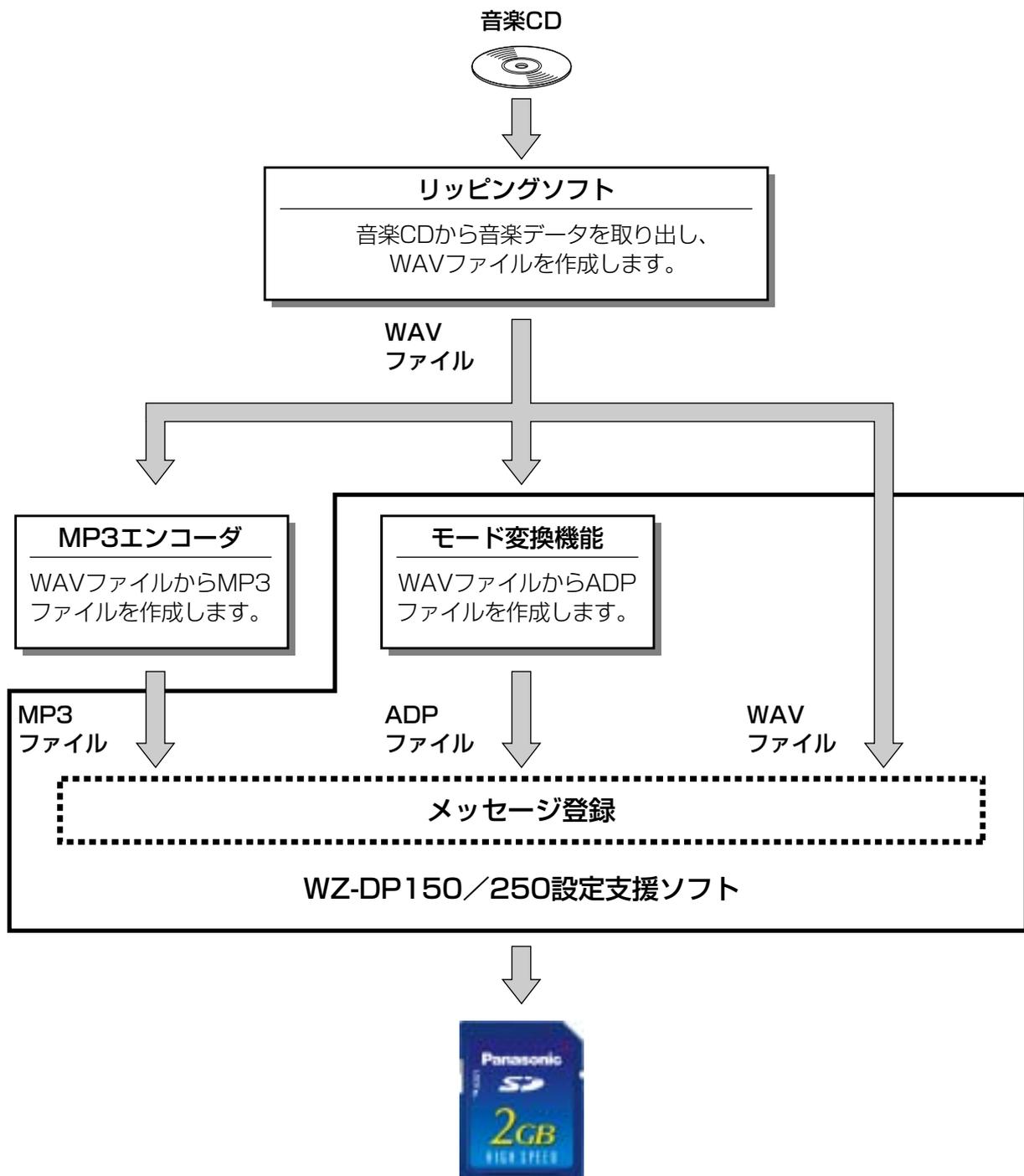
拡張子	項目	内容
WAV	音声データ形式	リニアPCM
	サンプリング周波数	44.1 Hz
	オーディオサンプルサイズ	16 bit
	チャンネル	モノラル
ADP	音声データ形式	独自形式
	サンプリング周波数	44.1 kHz (標準) / 24 kHz (エコノミー)
	オーディオサンプルサイズ	4 bit (標準) / 5 bit (エコノミー)
	チャンネル	モノラル
MP3	音声データ形式	MPEG Audio Layer 3
	サンプリング周波数	44.1 kHz
	オーディオサンプルサイズ	16 bit
	チャンネル	ステレオ / モノラル
	ビットレート	128 kbps / 64 kbps



- WAVファイルは本体で [高音質] で録音したときに作成されるファイルです。
- ADPファイルは本体で [標準]、[エコノミー] で録音したときに作成されるファイルで、本体および設定支援ソフトでのみ使用できる独自形式のファイルです。

メッセージ作成の流れ

メッセージの作成の流れは下図のとおりです。



- リッピングソフトおよびMP3エンコーダは市販のソフトウェアをご利用ください。
- メッセージに登録できる音源ファイルは、ファイル名が英数字の8.3形式(ベース名8文字、拡張子3文字)のファイルです。上記以外のファイル名の音源ファイルは、ファイル名を変更してからメッセージの登録を行ってください。

ライブラリの登録

PC内の音源ファイルをライブラリに登録します。

ライブラリに登録した音源ファイルはメッセージに登録できます。

ライブラリ登録画面は運用データ編集画面の「ライブラリ登録」ボタンをクリックすると表示されます。



番号	名称	説明
①	フォルダリスト	PC内のフォルダを表示します。
②	音源ファイルリスト	フォルダリストで選択したフォルダ内の音源ファイルを表示します。
③	[→] ボタン	音源ファイルリストで選択した音源ファイルをライブラリに登録します。
④	ライブラリリスト	ライブラリに登録されている音源ファイルを表示します。
⑤	[再生] ボタン	サウンドプレーヤーを起動し、音源ファイルリストやライブラリリストで選択した音源ファイルを試聴します。
⑥	[削除] ボタン	音源ファイルリストやライブラリリストで選択した音源ファイルを削除します。 編集中の運用データで使用している音源ファイルは削除できません。
⑦	[音源加工] ボタン	音源ファイルリストやライブラリリストで選択した音源ファイルを加工します。 音源ファイルのトリミングやモード変換ができます。

●ライブラリ登録

ライブラリに音源ファイルを登録します。

操作手順

1 フォルダリストから音源ファイルがあるフォルダをクリックする

選択したフォルダ内の音源ファイルが音源ファイルリストに表示されます。

2 音源ファイルリストから音源ファイルを選択し、[→] ボタンをクリックする

選択した音源ファイルがライブラリに登録されます。



重要 ●ライブラリに登録できる音源ファイルは、ファイル名が英数字の8.3形式（ベース名8文字、拡張子3文字）のファイルです。上記以外のファイル名の音源ファイルは、ファイル名を変更してからライブラリ登録を行ってください。

●音源ファイルの削除

音源ファイルリストやライブラリリストから音源ファイルを削除します。

操作手順

1 音源ファイルリストやライブラリリストから削除する音源ファイルを選択する



2 [削除] ボタンをクリックする 削除確認画面が表示されます。



3 [はい] ボタンをクリックする 選択した音源ファイルが削除されます。 削除を中止したいときは[いいえ]ボタンをクリックします。



メモ ●編集集中の運用データで使用されている音源ファイルは削除できません。

メッセージの作成

メッセージの登録や設定を行います。

メッセージ登録画面は運用データ編集画面の [メッセージ登録] ボタンをクリックすると表示されます。



番号	ボタン名称	説明
①	メッセージ保存領域 選択タブ	各タブをクリックすることにより、メッセージの登録を行うメッセージ保存領域を選択します。選択できるメッセージ保存領域は [A面]、[B面]、[内蔵メモリー] です。
②	音源ファイル領域 選択	メッセージに登録する音源ファイルの領域を選択します。メッセージに登録できるのは [ライブラリ]、[A面]、[B面]、[内蔵メモリー] にある音源ファイルです。
③	音源ファイルリスト	音源ファイル領域選択で選択した領域の音源ファイルを表示します。
④	[→] ボタン	音源ファイルリストで選択した音源ファイルをメッセージに登録します。
⑤	メッセージリスト	メッセージ保存領域選択タブで選択した領域のメッセージが一覧表示されます。メッセージ名称、再生回数、再生間隔など、メッセージを設定します。
⑥	[再生] ボタン	サウンドプレーヤーを起動し、音源ファイルリストで選択した音源ファイルやメッセージリストで選択したメッセージを再生します。

番号	ボタン名称	説明
⑦	[削除] ボタン	音源ファイルリストの音源ファイルを削除します。音源ファイルの削除の方法は33ページを参照してください。
⑧	[クリア] ボタン	メッセージリストで選択したメッセージから音源ファイルの登録を解除します。
⑨	[領域コピー] ボタン	領域コピー画面を表示します。SDメモリーカードやバックアップフォルダにある運用データからA面、B面、内蔵メモリーのメッセージを①で選択したメッセージ保存領域にコピーします。
⑩	[エクスポート] ボタン	メッセージリストで選択したメッセージに割り当てられている音源ファイルをライブラリにコピーします。
⑪	[音源加工] ボタン	音源ファイルリストやメッセージリストで選択した音源ファイルを加工します。音源ファイルのトリミングやモード変換ができます。

●メッセージの登録

音源ファイルをメッセージに登録します。

操作手順

1 メッセージ登録を行うメッセージ保存領域のタブをクリックする

メッセージリストに選択したメッセージ保存領域のメッセージが表示されます。

2 メッセージに割り当てる音源ファイル領域を選択する

選択した音源ファイル領域の音源ファイルが音源ファイルリストに表示されます。



- 選択できる音源ファイル領域は、ライブラリと編集している運用データの [A面]、[B面]、[内蔵メモリー] です。

3 音源ファイルを選択し、[→] ボタンをクリックする

4 登録したいメッセージ番号をクリックする

クリックしたメッセージ番号に音源ファイルが登録され、音源ファイルの情報が表示されます。



- メッセージに登録できる音源ファイルは、ファイル名が英数字の8.3形式（ベース名8文字、拡張子3文字）のファイルです。上記以外のファイル名の音源ファイルは、ファイル名を変更してからメッセージの登録を行ってください。



- 音源ファイルを選択し、メッセージリストにドラッグ&ドロップしてもメッセージを登録できます。
- 音源ファイル領域では、ファイル名の文字色で音源ファイルの状態を表します。
 - 黒：本体および設定支援ソフトでサポートしている形式の音源ファイルで、メッセージに登録されていません。
 - 緑：本体および設定支援ソフトでサポートしている形式の音源ファイルで、メッセージに登録されています。
 - 赤：本体および設定支援ソフトでサポートしていない形式の音源ファイルです。

●メッセージの設定

メッセージ名称、再生回数、再生間隔を設定します。
 メッセージ名称、再生回数、再生間隔を表示するには、メッセージリストを横にスクロールしてください。
 メッセージの設定を行うにはあらかじめメッセージの登録を行ってから設定してください。

操作手順

1 メッセージリストで設定を行うメッセージの【名称】欄をダブルクリックし、メッセージ名を入力する

名称	再生回数	再生間隔
	1回	0秒
	1回	0秒

メッセージ名称に入力できる文字一覧表

文字の種類	入力可能文字種									
英大文字	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
	U	V	W	X	Y	Z				
英小文字	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
	u	v	w	x	y	z				
記号	!	"	#	\$	%	&	'	()	*
	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>
	?	@	_	空白						
数字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
カタカナ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ
	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン				
	ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	
空白	-	°	”							



- メッセージ名称は15文字まで入力できます。入力可能な文字は、半角の英大文字、英小文字、数字、記号、カタカナです。
- 全角の英大文字、英小文字、数字、記号、カタカナを入力した場合は、自動的に半角に変換されます。
- ひらがなを入力した場合は、自動的に半角のカタカナに変換されます。
- メッセージ名称に使用できる文字以外の文字を入力した場合は、入力した文字は無視されます。

2 【再生回数】欄をダブルクリックし、メッセージの再生回数を設定する

再生回数は1～99回、無限回から選択できます。

名称	再生回数	再生間隔
シキウアナウンス	1回	0秒
	1回	0秒
	2回	0秒
	3回	0秒
	4回	0秒
	5回	0秒
	6回	0秒
	7回	
	8回	

3 [再生間隔] 欄をダブルクリックし、メッセージの再生間隔を設定する

再生間隔は0～59秒（1秒刻み）、1～30分（1分刻み）から選択できます。

再生間隔は再生回数を2回以上に設定したときのみ設定できます。

名称	再生回数	再生間隔
シキウアナウンス	2回	0秒
	1回	0秒
	1回	1秒
	1回	2秒
	1回	3秒
	1回	4秒
	1回	5秒
		6秒
		7秒
		8秒
		9秒

3



- プロテクト設定されているメッセージは、メッセージ名称、再生回数、再生間隔の変更はできません。プロテクトを解除してから設定してください。

●メッセージのプロテクト

メッセージをプロテクトし、誤ってメッセージの設定変更や削除をさせないようにします。

操作手順

1 メッセージリストでプロテクトするメッセージの

 アイコンをクリックする

メッセージがプロテクトされ、アイコンが  に変わります。

	No.	領域	ファイル名
	MSG001	A面	ANNOUNCE.WAV
	MSG002	A面	CALLSIGN.WAV
	MSG003	A面	MESSAGE1.ADP

1



- プロテクトを解除する場合は、 アイコンをクリックします。プロテクトが解除されるとアイコンが  に変わります。

●メッセージのクリア

メッセージから音源ファイルの登録を解除します。

操作手順

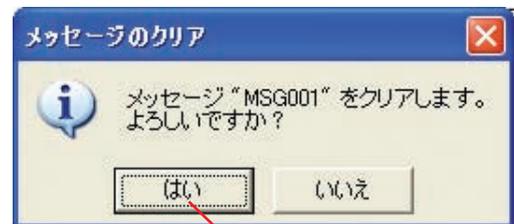
- 1** メッセージリストから削除する
メッセージを選択する

	No.	領域	ファイル名
	MSG001	A面	ANNOUNCE.WAV
	MSG002	A面	CALLSIGN.WAV
	MSG003	A面	MESSAGE1.ADP

- 2** [クリア] ボタンをクリックする
クリア確認画面が表示されます。



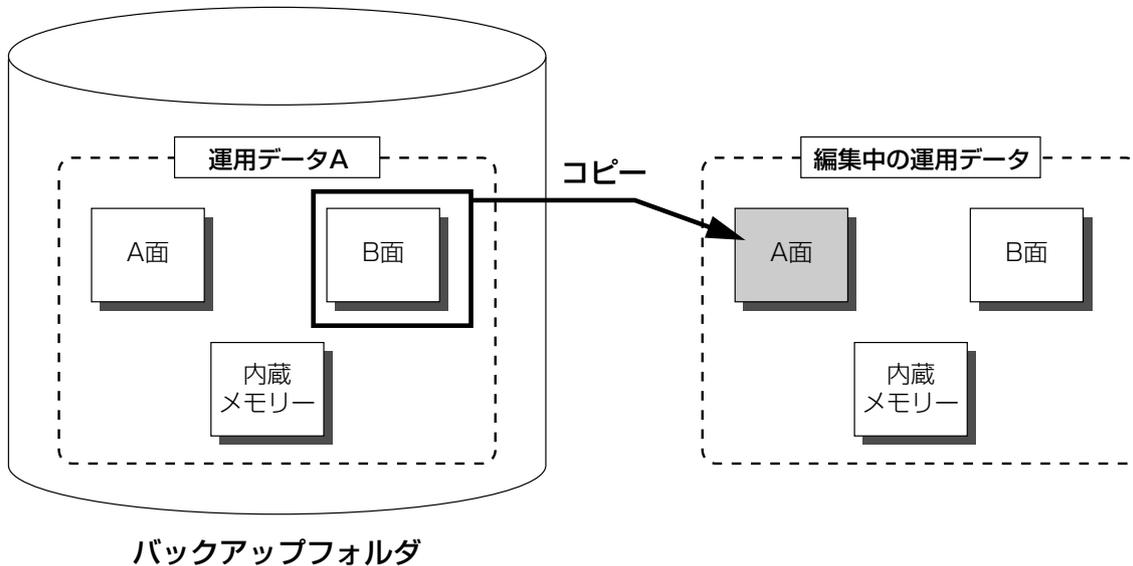
- 3** [はい] ボタンをクリックする
選択したメッセージがクリアされます。
クリアを中止したいときは [いいえ] ボタンをクリックします。



- プロテクト設定されているメッセージは、クリアできません。プロテクトを解除してからクリアしてください。

●領域コピー

バックアップフォルダやSDメモリーカードにある運用データのメッセージをメッセージ保存領域ごとコピーできます。



操作手順

- 1 [領域コピー] ボタンをクリックする
領域コピー画面が表示されます。



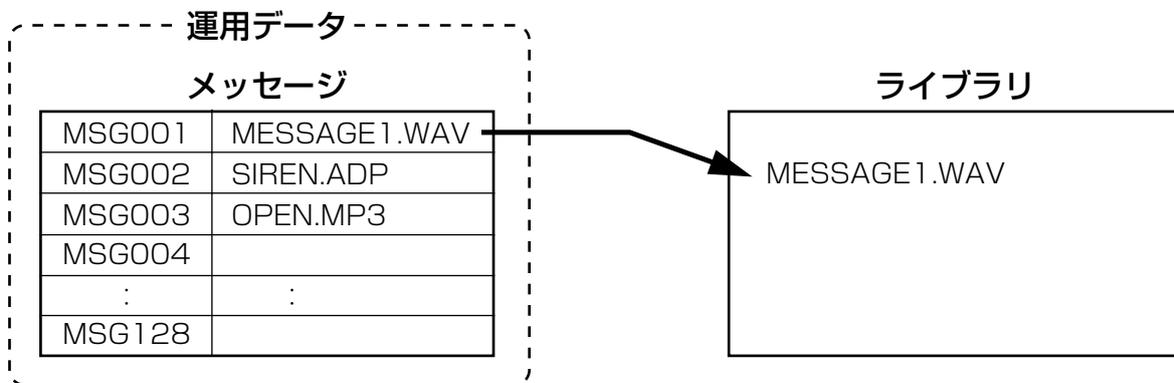
- 2 SDメモリーカードあるいはバックアップフォルダにある運用データのメッセージ保存領域を選択し、[コピー] ボタンをクリックする
選択したメッセージ保存領域のメッセージが編集中の運用データにコピーされます。



- 領域コピーするメッセージ保存領域のメッセージが組合せメッセージやプログラムメッセージに使用している場合、領域コピーを実行すると組合せメッセージやプログラムメッセージから当該領域のメッセージが削除されます。

●メッセージのエクスポート

メッセージに登録されている音源ファイルをライブラリにコピーできます。音源ファイルをライブラリにコピーすることで、本体で録音したメッセージをほかの運用データで使用できます。



- メッセージにライブラリの音源ファイルを選択している場合はエクスポートできません。

操作手順

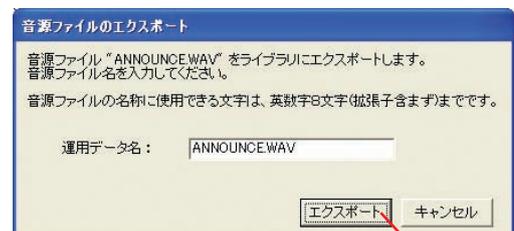
- 1 メッセージリストでエクスポートするメッセージを選択する

	No.	領域	ファイル名
	MSG001	A面	ANNOUNCE.WAV
	MSG002	A面	CALLSIGN.WAV
	MSG003	A面	MESSAGE1.ADP

- 2 [エクスポート] ボタンをクリックする
エクスポート画面が表示されます。



- 3 ファイル名を入力し、[エクスポート] ボタンをクリックする
メッセージに登録されている音源ファイルが、ライブラリにコピーされます。
ファイル名に使用できる文字は8.3形式（ベースファイル名:8文字、拡張子3文字）の英数字です。



組合せメッセージ／プログラムメッセージについて

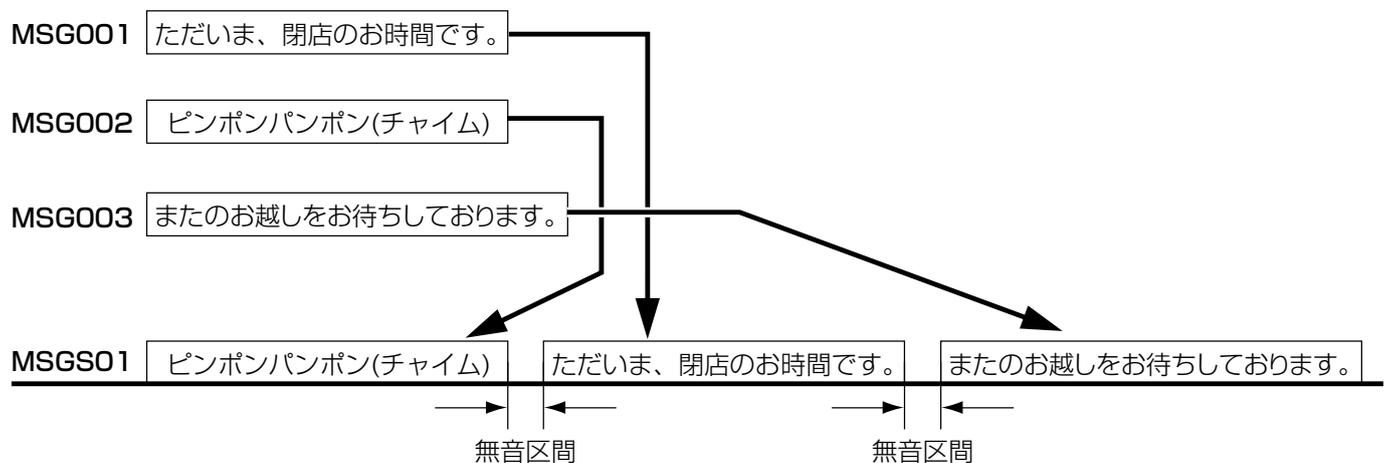
メッセージを複数組合せて、新しいメッセージを作成できます。あらかじめ組合せメッセージやプログラムメッセージを作成しておけば、チャイムのあとに案内メッセージを放送するなど、簡単に定型の案内放送ができます。また、各メッセージの間に無音区間を設定できます。

下記の例では、次の3つのメッセージを組合せて、組合せメッセージを作成します。

MSG001：ただいま、閉店のお時間です。

MSG002：ピンポンパンポン(チャイム)

MSG003：またのお越しをお待ちしております。



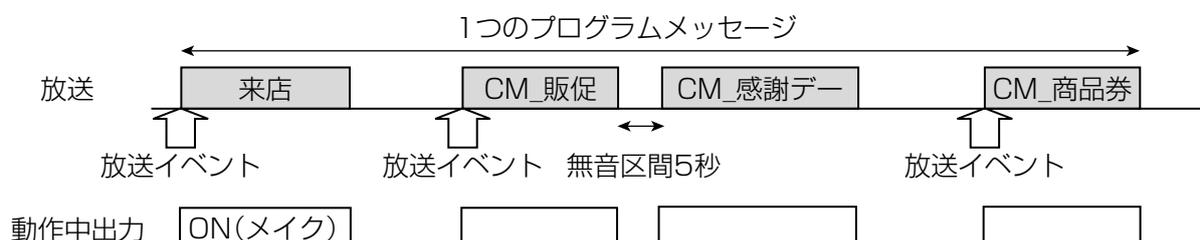
組合せメッセージやプログラムメッセージについての詳細は、本体の取扱説明書をお読みください。

組合せメッセージ／プログラムメッセージの動作

●組合せメッセージの再生の例



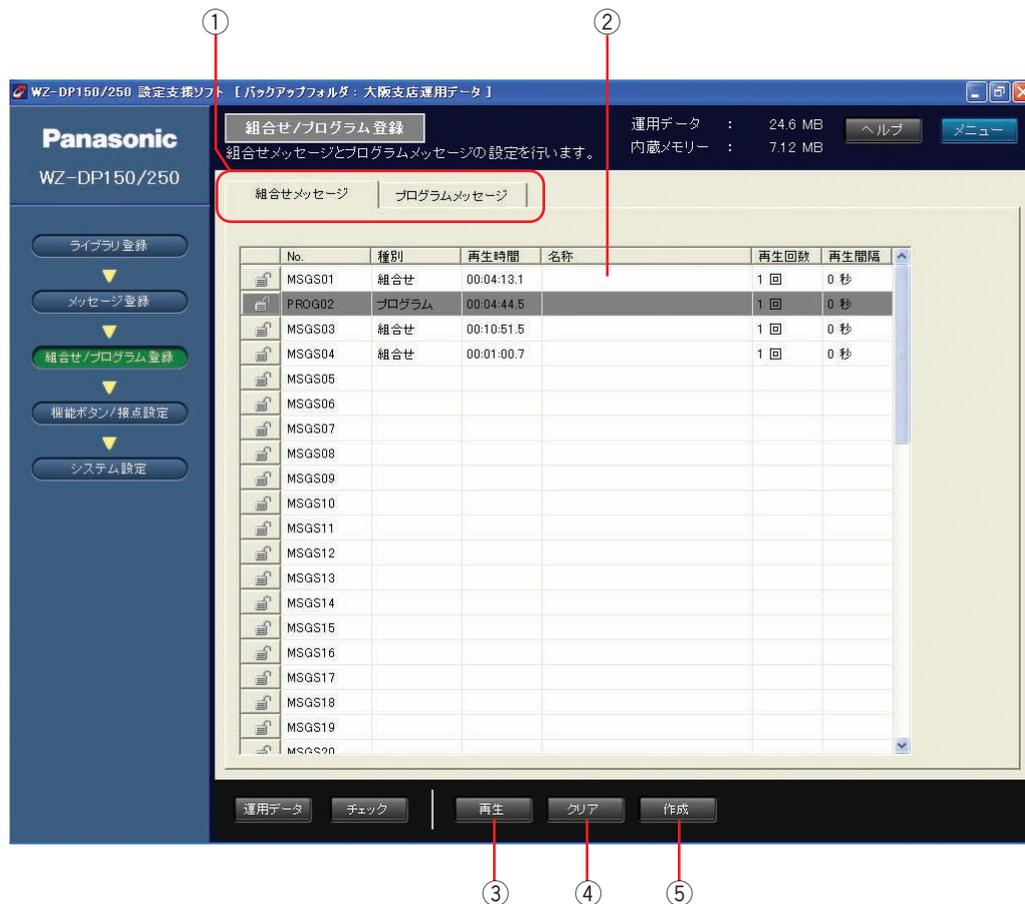
●プログラムメッセージの再生の例



組合せメッセージ／プログラムメッセージの作成

組合せメッセージやプログラムメッセージの作成や設定を行います。

組合せ/プログラム登録画面は運用データ編集画面の「組合せ/プログラム登録」ボタンをクリックすると表示されます。



番号	ボタン名称	説明
①	組合せ／プログラム 選択タブ	各タブをクリックすることにより、設定するメッセージを選択します。
②	組合せ／プログラム メッセージリスト	組合せ／プログラム選択タブで選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを表示します。
③	[再生] ボタン	サウンドプレーヤーを起動し、組合せ／プログラムメッセージリストで選択したメッセージを再生します。
④	[クリア] ボタン	組合せ／プログラムメッセージリストで選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを削除します。
⑤	[作成] ボタン	組合せメッセージやプログラムメッセージを作成します。

● 組合せメッセージの作成

組合せメッセージはプログラムメッセージと、合わせて50件のメッセージを作成できます。

操作手順

1 組合せ／プログラム選択タブで【組合せメッセージ】タブをクリックする

2 作成する組合せメッセージの番号をクリックする



- すでにプログラムメッセージが登録されている番号を選択することはできません。

3 【作成】 ボタンをクリックする

組合せメッセージ作成画面が表示されます。

4 組合せメッセージに使用するメッセージのメッセージ保存領域を選択する

選択したメッセージ保存領域のメッセージが表示されます。



- 組合せメッセージに使用できるメッセージは [A面] および [B面] のメッセージです。

5 メッセージを選択し、[→] ボタンをクリックする



- 組合せメッセージには、最大128ステップまでのメッセージを登録できます。

6 登録したいステップ番号をクリックする

クリックした番号にメッセージが登録されます。



7 登録したステップ番号の【無音区間】欄をダブルクリックし、無音区間を設定します。

設定できる無音区間は0秒～59秒（1秒刻み）、1分～30分（1分刻み）です。

4～7の操作を繰り返し、組合せメッセージを作成します。

領域	No.	再生時間	無音区間
A面	MSG001	00:00:08.9	0 秒
B面	MSG003	00:00:10.0	0 秒
			1 秒
			2 秒
			3 秒
			4 秒
			5 秒
			6 秒
			7 秒
			8 秒
			9 秒

8 【閉じる】 ボタンをクリックする

組合せメッセージ作成画面が閉じます。



- [挿入] ボタンをクリックすると、選択したステップの前にメッセージを追加できます。
- [削除] ボタンをクリックすると、組合せメッセージから選択したステップ番号のメッセージを削除します。
- [再生] ボタンをクリックすると、サウンドプレーヤーを起動し選択したメッセージを再生します。

●プログラムメッセージの作成

プログラムメッセージは、組合せメッセージと合わせて50件のメッセージを作成できます。

操作手順

1 組合せ/プログラム選択タブで【プログラムメッセージ】をクリックする



2 作成するプログラムメッセージの番号をクリックする



- すでに組合せメッセージが登録されている番号を選択することはできません。

3 【作成】 ボタンをクリックする

プログラムメッセージ作成画面が表示されます。

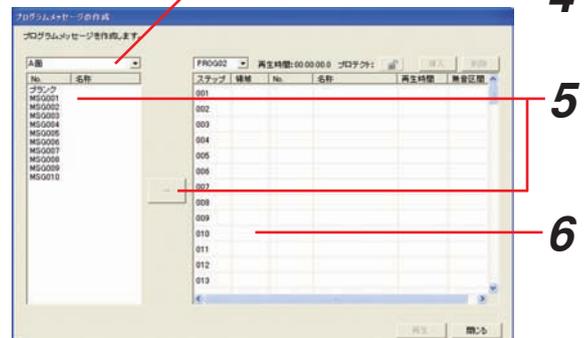


4 プログラムメッセージに使用するメッセージのメッセージ保存領域を選択する

選択したメッセージ保存領域のメッセージが表示されます。



- プログラムメッセージに使用できるメッセージはブランクメッセージと [A面] および [B面] のメッセージです。



5 メッセージを選択し、[→] ボタンをクリックする



- プログラムメッセージには、最大128ステップまでのメッセージを組合せることができます。

6 登録したいステップ番号をクリックする

クリックした番号にメッセージが登録されます。



- プログラムメッセージにはブランクメッセージを登録することができます。ブランクメッセージとは無音のメッセージのことを指します。
- ブランクメッセージを登録する場合はメッセージ領域の先頭にある「ブランク」を選択します。
- ブランクメッセージの再生時間は「再生時間」欄をダブルクリックして最大60秒（1秒刻み）まで設定できます。

領域	No.	名称	再生時間
A面	MSG001	アナウンス	00:00:08.8
-	ブランク	-	0 秒
			0 秒
			1 秒
			2 秒
			3 秒
			4 秒
			5 秒
			6 秒
			7 秒
			8 秒
			9 秒
			10 秒

7 登録したステップ番号の「無音区間」欄をダブルクリックし、無音区間を設定する

設定できる無音区間は0秒～59秒（1秒刻み）、1分～30分（1分刻み）です。

4～7の操作を繰り返し、プログラムメッセージを作成します。



- プログラムメッセージには無音区間に放送イベントを設定できます。

領域	No.	名称	再生時間	無音区間
A面	MSG001		00:00:11.7	0 秒
-	ブランク	-	0 秒	イベント
				0 秒
				1 秒
				2 秒
				3 秒
				4 秒
				5 秒
				6 秒
				7 秒
				8 秒

8 「閉じる」ボタンをクリックする

プログラムメッセージ作成画面が閉じます。



- [挿入] ボタンをクリックすると、選択したステップの前にメッセージを追加できます。
- [削除] ボタンをクリックすると、プログラムメッセージから選択したステップを削除します。
- [再生] ボタンをクリックすると、サウンドプレーヤーを起動し、選択したメッセージを再生します。

● 組合せメッセージ／プログラムメッセージの設定

組合せメッセージ／プログラムメッセージのメッセージ名称、再生回数、再生間隔を設定します。

操作手順

- 1 メッセージリストで設定を行う組合せメッセージ／プログラムメッセージの【名称】欄をダブルクリックし、メッセージ名を入力する

名称	再生回数	再生間隔
	1 回	0 秒
	1 回	0 秒

1



- メッセージ名称は15文字まで入力できます。入力可能な文字は、英大文字、英子文字、数字、記号、カタカナです。入力可能な文字の詳細はメッセージ名称に入力できる文字一覧表（37ページ）をお読みください。

- 2 【再生回数】欄をダブルクリックし、組合せメッセージ／プログラムメッセージの再生回数を設定する
再生回数は1～99回、無限回から選択できます。

名称	再生回数	再生間隔
シギウアナウンス	1 回	0 秒
	1 回	0 秒
	2 回	0 秒
	3 回	0 秒
	4 回	0 秒
	5 回	0 秒
	6 回	0 秒
	7 回	0 秒
	8 回	0 秒

2

- 3 【再生間隔】欄をダブルクリックし、組合せメッセージ／プログラムメッセージの再生間隔を設定する

再生間隔は0～59秒（1秒刻み）、1～30分（1分刻み）から選択できます。

再生間隔は再生回数を2回以上に設定したときのみ設定できます。

名称	再生回数	再生間隔
シギウアナウンス	2 回	0 秒
	1 回	0 秒
	1 回	1 秒
	1 回	2 秒
	1 回	3 秒
	1 回	4 秒
	1 回	5 秒
		6 秒
		7 秒
		8 秒
		9 秒

3



- プロテクト設定されているメッセージは、メッセージ名称、再生回数、再生間隔を変更できません。プロテクトを解除してから設定してください。

● 組合せメッセージ／プログラムメッセージのプロテクト

組合せメッセージやプログラムメッセージをプロテクトすることで、誤って組合せメッセージやプログラムメッセージの設定変更や削除をさせないようにします。

操作手順

1 メッセージリストでプロテクトするメッセージの

 アイコンをクリックする

メッセージがプロテクトされ、アイコンが  に変わります。

	No.	種別	再生時間
	MSG01	組合せ	00:00:18.9
	MSG02	組合せ	00:05:27.1
	MSG03	組合せ	00:10:32.6

1



- プロテクトを解除する場合は、 アイコンをクリックします。プロテクトが解除されるとアイコンが  に変わります。

● 組合せメッセージ／プログラムメッセージの削除

組合せメッセージ／プログラムメッセージを削除します。

操作手順

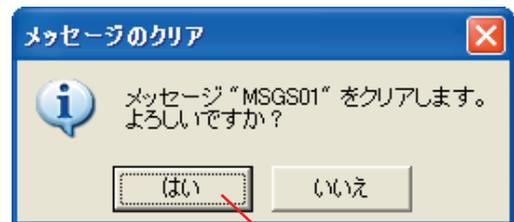
1 メッセージリストから削除する組合せメッセージ／プログラムメッセージを選択する

	No.	種別	再生時間
	MSG01	組合せ	00:00:18.9
	MSG02	組合せ	00:05:27.1
	MSG03	組合せ	00:10:32.6

2 [クリア] ボタンをクリックする
クリア確認画面が表示されます。



3 [はい] ボタンをクリックする
選択した組合せメッセージ／プログラムメッセージが削除されます。
削除を中止したいときは [いいえ] ボタンをクリックします。

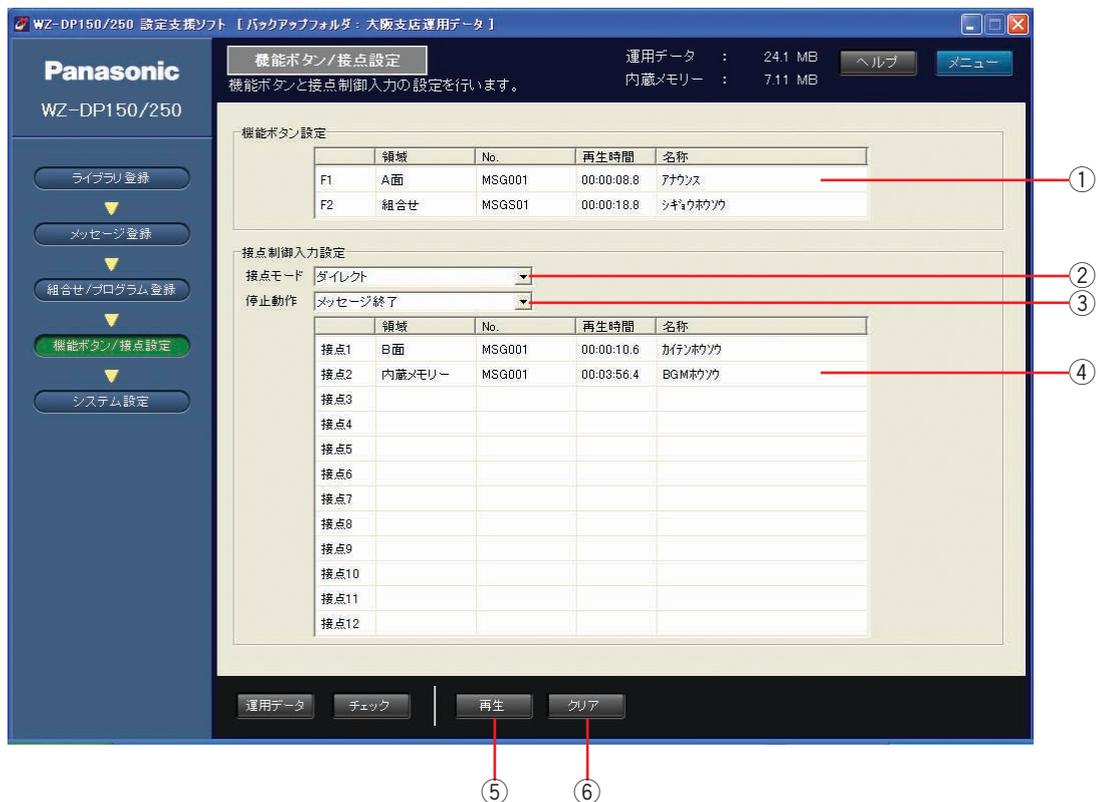


- プロテクト設定されているメッセージは、削除できません。プロテクトを解除してから削除してください。

機能ボタン／接点制御入力の設定

機能ボタンや接点制御入力の設定を行います。

機能ボタン／接点設定画面は運用データ編集画面の [機能ボタン／接点設定] ボタンをクリックすると表示されます。



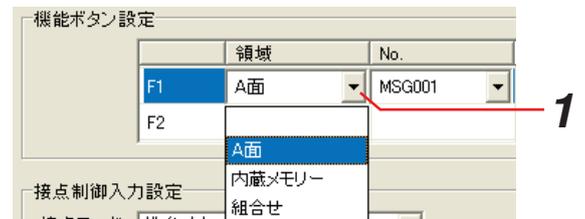
番号	ボタン名称	説明
①	機能ボタンリスト	機能ボタン (F1、F2ボタン) の設定を表示します。
②	接点モード選択	接点制御入力によるメッセージの再生方法を設定します。
③	停止動作選択	接点モード選択で [ダイレクト] または [ダイレクト+スタート+ストップ] を選択したときに、曲の終了方法を設定します。
④	接点制御入力リスト	接点制御入力の設定を表示します。
⑤	[再生] ボタン	サウンドプレーヤーを起動し、機能ボタンリストや接点制御入力リストで選択したメッセージを試聴します。
⑥	[クリア] ボタン	機能ボタンや接点制御入力に割り当てられているメッセージを解除します。

●機能ボタンの設定

機能ボタン (F1、F2) にメッセージを割り当てます。本体では機能ボタンを押すと、機能ボタンに割り当てられたメッセージが再生されます。

操作手順

- 1 機能ボタンリストの【領域】欄をダブルクリックし、機能ボタンに割り当てるメッセージの領域を選択する
機能ボタンに割り当てられるメッセージは [内蔵メモリー]、[A面]、[B面] のメッセージ、組合せメッセージ、プログラムメッセージから選択できます。



- 2 【No】欄で機能ボタンに割り当てるメッセージを選択する

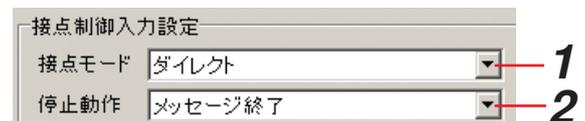


●接点制御入力の設定

接点制御入力の動作設定やメッセージの割り当てを行います。

操作手順

- 1 接点モード選択をクリックし、接点制御入力の動作モードを設定する
選択できるモードは [ダイレクト]、[ダイレクト+スタート+ストップ]、[パルス]、[パルス+スタート+ストップ]、[バイナリー+スタート+ストップ] です。
- 2 停止動作選択をクリックし、メッセージ終了時の動作を設定する
選択できる停止動作は [メッセージ終了] と [フェードアウト終了] です。



- 停止動作の設定は接点モードを [ダイレクト]、[ダイレクト+スタート+ストップ] を選択したときに設定できます。

- 3 接点制御入力リストの【領域】欄をダブルクリックし、接点制御入力に割り当てるメッセージの領域を選択する
接点制御入力に割り当てられるメッセージは [内蔵メモリー]、[A面]、[B面] のメッセージ、組合せメッセージ、プログラムメッセージから選択できます。



4 [No] 欄で接点制御入力に割り当てるメッセージを選択する

	領域	No.
接点1	組合せ	MSG01
接点2		MSG01
接点3		MSG02
接点4		MSG03



- 接点モードを [ダイレクト+スタート+ストップ]、[パルス+スタート+ストップ] に設定したときは接点10まで設定できます。[バイナリー+スタート+ストップ] に設定したときは接点にメッセージを割り当てられません。
- 接点制御入力の動作についての詳細は本体の取扱説明書をお読みください。

●メッセージ割り当ての解除

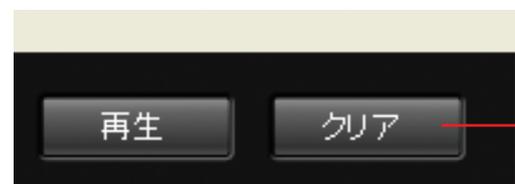
機能ボタンや接点制御入力に割り当てたメッセージを解除します。

操作手順

1 機能ボタンリスト／接点制御入力リストからメッセージを解除する機能ボタン／接点制御入力を選択する

	領域	No.
接点1	A面	MSG001
接点2	B面	MSG001

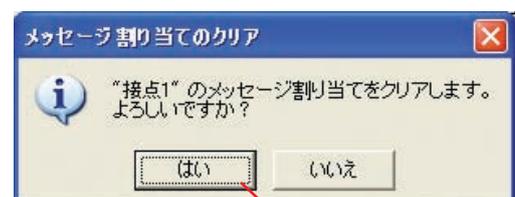
2 [クリア] ボタンをクリックする クリア確認画面が表示されます。



3 [はい] ボタンをクリックする

選択した機能ボタン／接点制御入力に割り当てたメッセージが解除されます。

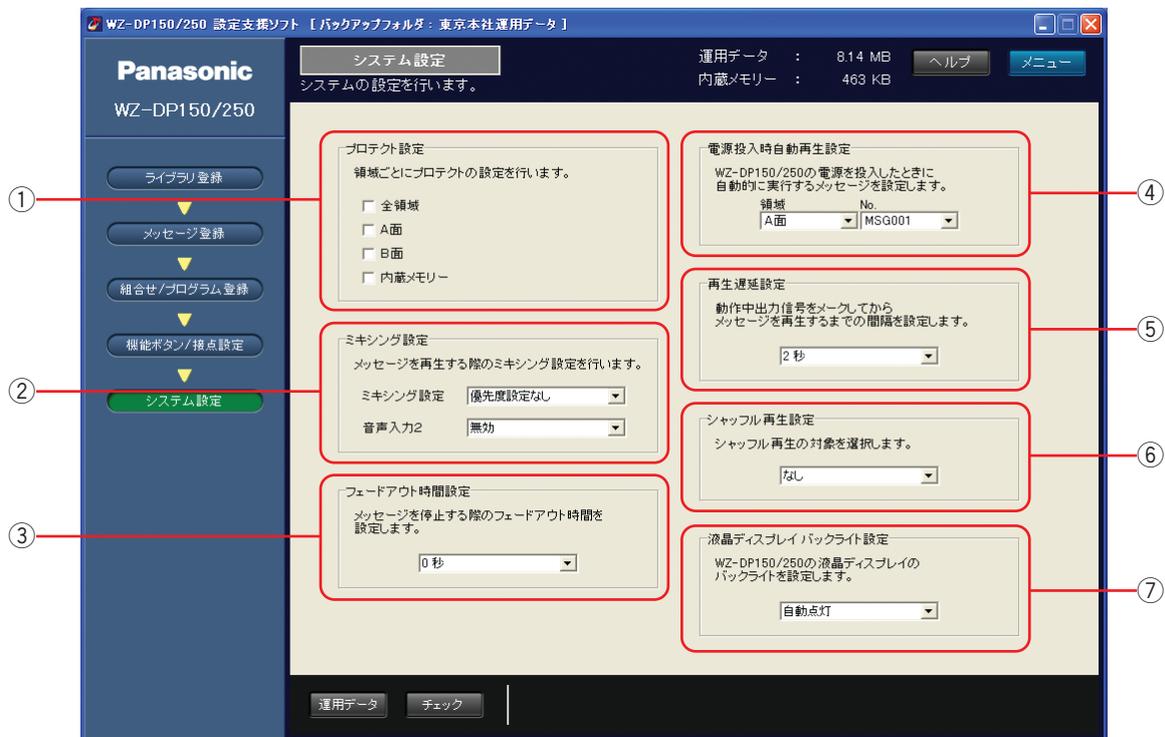
[いいえ] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。



システムの設定

本体の動作に関わる設定を行います。

システム設定画面は運用データ編集画面の〔システム設定〕ボタンをクリックすると表示されます。



① プロテクト設定

選択したメッセージ保存領域のメッセージをプロテクトします。

プロテクト設定されたメッセージ保存領域のメッセージは、本体で削除や変更ができません。

設定	説明
全領域	A面、B面、内蔵メモリーの全メッセージをプロテクトします。
A面	A面の全メッセージをプロテクトします。
B面	B面の全メッセージをプロテクトします。
内蔵メモリー	内蔵メモリーの全メッセージをプロテクトします。



- プロテクト設定したメッセージ保存領域は本体でメッセージの変更ができません。設定支援ソフトではメッセージ保存領域のプロテクト設定に関わらず、メッセージの変更ができます。

② ミキシング設定

SDメモリーカードや内蔵メモリーのメッセージ再生と、音声入力1端子に接続した機器の音声をミキシングして放送できます。

このとき、メッセージ再生と、音声入力に優先順位を持たせて、自動的に一方の音量を下げることもできます。ミキシング設定時の動作についての詳細は本体の取扱説明書をお読みください。

●ミキシング設定

ミキシングの動作を設定します。

設定	説明
ミキシングなし	再生メッセージのみ出力します。
メッセージ優先	メッセージを再生した際、音声入力1端子より入力した音声を自動的に絞り、ミキシングします。メッセージの再生が終了すると、音声入力1端子より入力した音声の音量は自動的に戻ります。
音声入力1優先	音声入力1端子より音声を入力した際、再生していたメッセージの音量を自動的に絞り、ミキシングします。音声入力1端子からの音声入力が終了すると、再生していたメッセージの音量は自動的に戻ります。
優先度設定なし	音量調節はせず、ミキシングします。

●音声入力2

音声入力2の有効/無効を設定します。

ミキシング設定が [ミキシングなし] 以外のときに設定することができます。

設定	説明
有効	音声入力2に入力した音声を有効にします。
無効	音声入力2に入力した音声を無効にします。

③ フェードアウト時間設定

再生中のメッセージを停止したときにフェードアウトする時間を設定します。

外部制御入力設定が下記の設定で、外部制御入力からメッセージを停止したときにフェードアウトしてメッセージを終了します。

- ・ 接点モード : [ダイレクト] または [ダイレクト+スタート+ストップ]
- ・ 停止動作 : [フェードアウト終了]

設定できるフェードアウト時間は1秒から10秒です。0秒に設定するとフェードアウトしません。

④ 電源投入時自動再生設定

電源投入時に自動的に再生するメッセージを設定します。登録されているメッセージのみ設定できます。

領域	メッセージ	説明
内蔵メモリー	MSG001~MSG127	内蔵メモリーのメッセージを再生します。
A面	MSG001~MSG127	A面のメッセージを再生します。
B面	MSG001~MSG127	B面のメッセージを再生します。
組合せ	MSG001~MSG50	組合せメッセージを再生します。
プログラム	PROG01~PROG50	プログラムメッセージを再生します。



- 設定を解除する場合は空欄を選択します。

⑤ 再生遅延設定

動作中出力信号とメッセージ再生の間隔を設定します。設定できる再生遅延時間は0秒~10秒です。

⑥ シャッフル再生設定

組合せメッセージやプログラムメッセージを再生するときの動作を設定します。本体をBGM再生機としてお使いの場合は、BGMのメッセージをシャッフルして再生できます。

設 定	説 明
なし	シャッフルしません。
組合せシャッフル	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージ内のメッセージをシャッフルして再生します。
組合せ以外 A面	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除くA面のメッセージをシャッフルして再生します。
組合せ以外 B面	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除くB面のメッセージをシャッフルして再生します。
組合せ以外 A面+B面	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除くA面およびB面のメッセージをシャッフルして再生します。

⑦ 液晶ディスプレイバックライト設定

本体の液晶ディスプレイバックライトを自動／常時点灯の切り換えを行います。

設 定	説 明
常時点灯	液晶ディスプレイのバックライトを常に点灯させます。
自動点灯	本体を操作したときに液晶ディスプレイのバックライトが点灯し、本体を操作したあと、60秒後に液晶ディスプレイのバックライトを消灯します。

その他の機能

音源加工

音源ファイルやメッセージを選択して、音源ファイルのモード変換やトリミングができます。

●モード変換

WAVファイルからADPファイルへ変換します。また、ADPファイルからWAVファイルへの変換もできます。



- ADPファイルは本体で [標準]、[エコノミー] で録音したときに作成されるファイルで、本体および設定支援ソフトでのみ使用できる独自形式のファイルです。
- ADPファイルは独自方式の圧縮ファイルです。そのため、WAVファイルをADPファイルに圧縮すると、データサイズが小さくなります。運用データのサイズを節約したい場合は、WAVファイルをADPファイルに変換することをお勧めします。
- ADPファイルは非可逆圧縮ファイルですので、WAVファイルにモード変換しても音質は変わりません。

変換できる音声データ形式は下表のとおりです。

変換前				変換後		
ADPファイル (標準)			→	WAVファイル (高音質)		
サンプリング周波数	44.1 kHz	サンプリング周波数		44.1 kHz		
オーディオサンプルサイズ	4 bit	オーディオサンプルサイズ		16 bit		
チャンネル	モノラル	チャンネル		モノラル		
ADPファイル (エコノミー)			→	WAVファイル*		
サンプリング周波数	24 kHz	サンプリング周波数		24 kHz		
オーディオサンプルサイズ	5 bit	オーディオサンプルサイズ		16 bit		
チャンネル	モノラル	チャンネル		モノラル		
WAVファイル (高音質)			→	ADPファイル (標準)		
サンプリング周波数	44.1 kHz	サンプリング周波数		44.1 kHz		
オーディオサンプルサイズ	16 bit	オーディオサンプルサイズ		4 bit		
チャンネル	モノラル	チャンネル		モノラル		
WAVファイル*			→	ADPファイル (エコノミー)		
サンプリング周波数	24 kHz	サンプリング周波数		24 kHz		
オーディオサンプルサイズ	16 bit	オーディオサンプルサイズ		5 bit		
チャンネル	モノラル	チャンネル		モノラル		

※本体で再生できない音声データ形式です。

操作手順

モード変換はライブラリ登録画面やメッセージ登録画面で選択した音源ファイルやメッセージをWAVファイルからADPファイルへ、ADPファイルからWAVファイルへ変換できます。以下に、ライブラリ登録画面で選択した音源ファイルをモード変換する例を説明します。

1 音源ファイルリストで音源ファイルを選択する



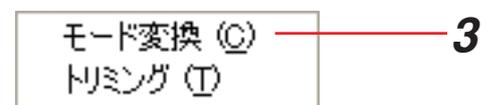
2 [音源加工] ボタンをクリックする

[音源加工] ボタンの上にメニュー画面が表示されます。



3 メニュー画面の [モード変換] をクリックする

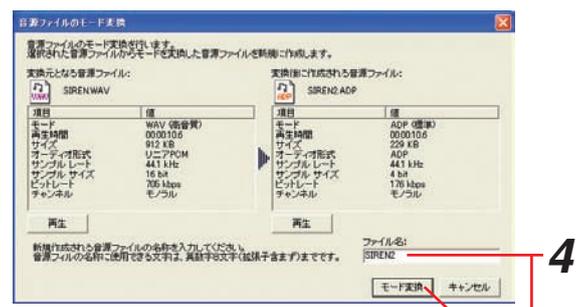
モード変換画面が表示されます。



4 ファイル名を入力し、[モード変換] ボタンをクリックする

音源ファイルのモードが変換され、ライブラリに保存されます。

モード変換を中止したい場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

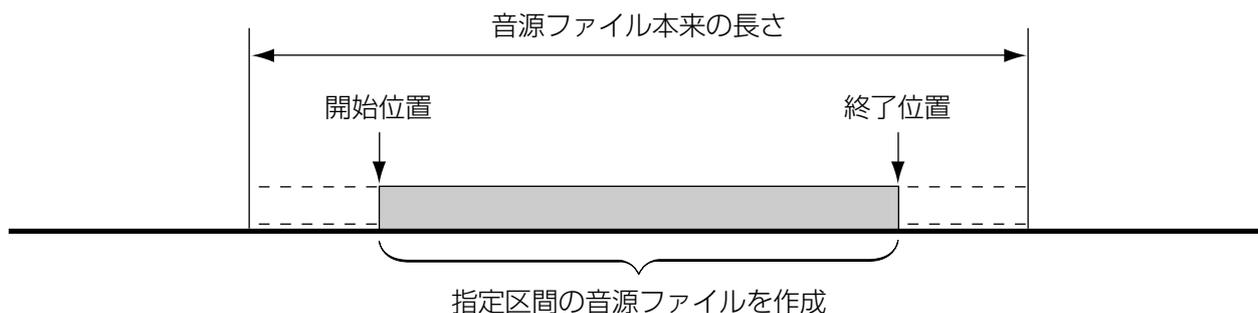


- 入力できるファイル名は、半角英数字8文字までです。
- モード変換は数分かかることがあります。

●トリミング

本体で録音した音源ファイルの開始位置と終了位置を指定し、指定した区間の音声を抜き出して新たに音源ファイルを作成できます。

- 重要** ● トリミングの開始位置、終了位置は必ず、無音箇所を指定してください。音声がある箇所からトリミングすると、作成した音源ファイルにノイズが残ることがあります。



トリミングできる音源ファイルは下表のとおりです。

拡張子	項目	内容
WAV (高音質)	サンプリング周波数	44.1 kHz
	オーディオサンプルサイズ	16 bit
	チャンネル	モノラル
WAV*	サンプリング周波数	24 kHz
	オーディオサンプルサイズ	16 bit
	チャンネル	モノラル
ADP (標準)	サンプリング周波数	44.1 kHz
	オーディオサンプルサイズ	4 bit
	チャンネル	モノラル
ADP (エコノミー)	サンプリング周波数	24 kHz
	オーディオサンプルサイズ	5 bit
	チャンネル	モノラル

※本体で再生できない音声データ形式です。

操作手順

モード変換はライブラリ登録画面やメッセージ登録画面で音源ファイルやメッセージを選択して実行できます。以下に、ライブラリ登録画面で音源ファイルをトリミングする例を説明します。

1 音源ファイルリストで音源ファイルを選択する



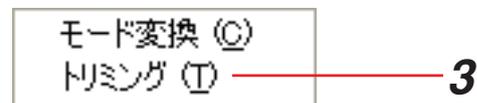
2 [音源加工] ボタンをクリックする

[音源加工] ボタンの上にメニュー画面が表示されます。



3 メニュー画面の [トリミング] をクリックする

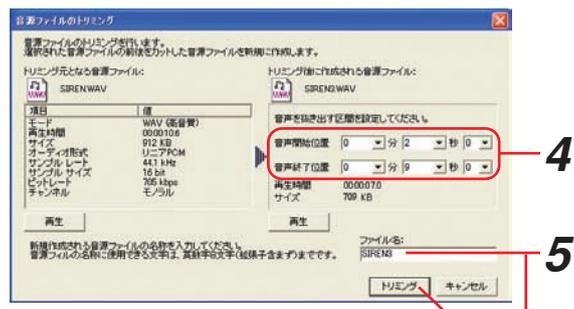
トリミング画面が表示されます。



4 トリミングの開始位置と終了位置を設定する

開始位置と終了位置は分、秒、100ミリ秒を設定できます。

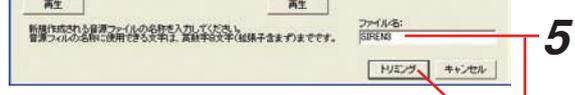
トリミング後の音声を確認する場合は、[再生] ボタンをクリックします。



5 ファイル名を入力し、[トリミング] ボタンをクリックする

指定した区間の音源ファイルが作成され、ライブラリに保存されます。

トリミングを中止したい場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。



- 入力できるファイル名は、半角英数字8文字までです。
- トリミングは数分かかることがあります。

運用データの整合性チェックと自動修正

異常がある運用データを本体で使用した場合には、メッセージが再生されないなどの不具合が発生するおそれがあります。作成した運用データを本体で使用する前に、運用データに不整合があるかチェックできます。また、不整合があった場合、運用データを自動的に修正します。

操作手順

1 運用データ編集画面で【チェック】ボタンをクリックする

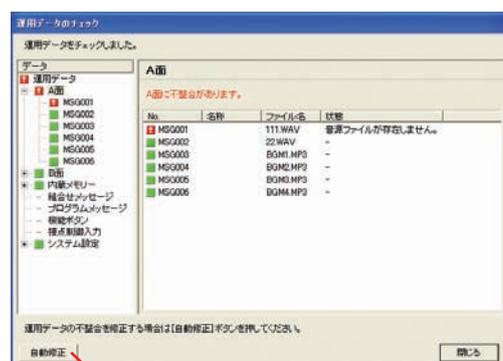
運用データチェック画面が表示されます。運用データに異常がある箇所が  で表示されます。



1

2 運用データに不整合がある場合は、運用データチェック画面で【自動修正】ボタンをクリックする

運用データの異常箇所を自動的に修正します。自動修正完了後は【閉じる】ボタンをクリックして運用データチェック画面を閉じます。



2



- 運用データに不整合がない場合、【自動修正】ボタンはクリックできません。

音源ファイル／メッセージの試聴

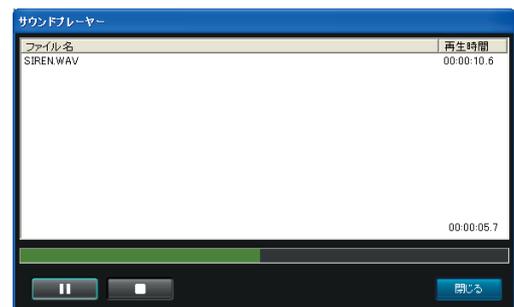
サウンドプレーヤーを起動し、音源ファイルやメッセージを試聴できます。
音源ファイルやメッセージの内容を確認するときに使用します。
ここではライブラリ登録画面で音源ファイルを試聴する場合を例に説明します。

操作手順

1 ライブラリ登録画面で試聴する音源ファイルを選択する



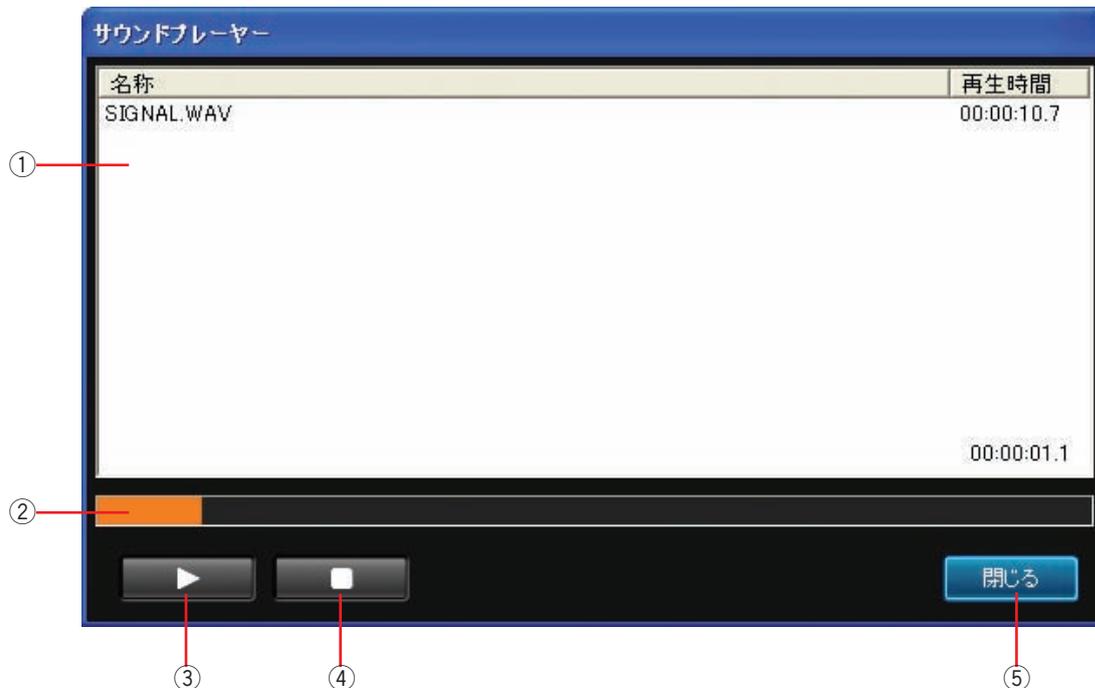
2 [再生] ボタンをクリックする
サウンドプレーヤーが起動され、選択した音源ファイルが再生されます。



- サウンドプレーヤーで表示される再生時間は、本体で表示される再生時間と異なることがあります。
- サウンドプレーヤーで音源ファイルやメッセージを再生するまでの時間は、本体で再生する場合と比べ、時間がかかることがあります。

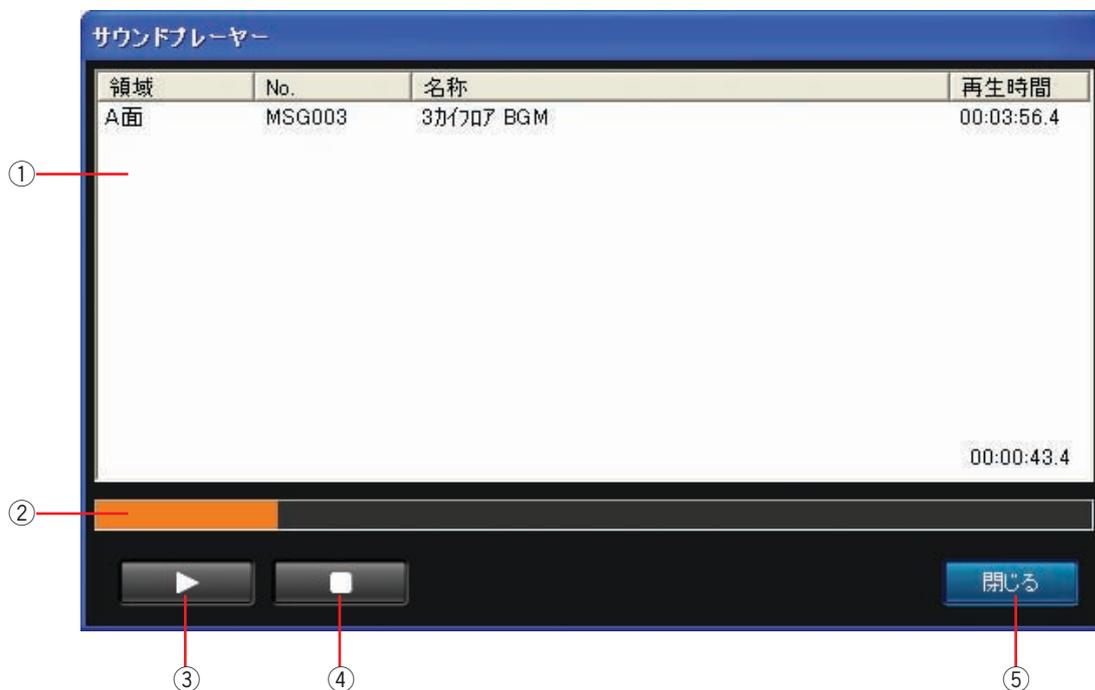
以下に、音源ファイル、メッセージ、組合せメッセージ/プログラムメッセージを再生するときに表示するサウンドプレーヤーの画面について説明します。

●音源ファイルの試聴



- ① **音源ファイル情報表示**
再生する音源ファイル名と再生時間を表示します。
- ② **再生位置スライダー**
音源ファイルの再生位置を表示します。再生位置スライダーをクリックすると、クリックした位置から再生を開始します。
- ③ **【▶】 ボタン**
音源ファイルを再生します。音源ファイル再生中は 【■】 ボタンが表示されます。【■】 ボタンをクリックすると再生中の音源ファイルを一時停止します。
- ④ **【■】 ボタン**
再生中のメッセージを停止します。
- ⑤ **【閉じる】 ボタン**
サウンドプレーヤーを閉じます。

●メッセージの試聴



① メッセージ情報表示

再生するメッセージの保存領域、メッセージ番号、名称、再生時間を表示します。

② 再生位置スライダー

メッセージの再生位置を表示します。再生位置スライダーをクリックすると、クリックした位置から再生を開始します。

③ [▶] ボタン

メッセージを再生します。音源ファイル再生中は [■] ボタンが表示されます。[■] ボタンをクリックすると再生中のメッセージを一時停止します。

④ [■] ボタン

再生中のメッセージを停止します。

⑤ [閉じる] ボタン

サウンドプレーヤーを閉じます。

●組合せメッセージ／プログラムメッセージの試聴



① 組合せメッセージ／プログラムメッセージ情報表示

再生する組合せメッセージやプログラムメッセージの番号、名称、再生時間を表示します。

② メッセージリスト

組合せメッセージ／プログラムメッセージを構成するメッセージのリストを表示します。組合せメッセージ／プログラムメッセージ再生時はステップの順番にしたがってメッセージを連続再生します。

③ 再生位置スライダー

組合せメッセージ／プログラムメッセージの再生位置を表示します。再生位置スライダーをクリックすると、クリックした位置から再生を開始します。

④ [▶] ボタン

組合せメッセージ／プログラムメッセージを再生します。再生中は [⏸] ボタンが表示されます。[⏸] ボタンをクリックすると再生中の音源ファイルを一時停止します。

⑤ [■] ボタン

再生中の組合せメッセージ／プログラムメッセージを停止します。

⑥ [▶▶] ボタン

次のステップのメッセージを再生します。

⑦ [◀◀] ボタン

前のステップのメッセージを再生します。

⑧ [閉じる] ボタン

サウンドプレーヤーを閉じます。



- プログラムメッセージを再生しているときは、放送イベントが挿入されている箇所ですら一時停止します。再度 [▶] ボタンをクリックすると、再生が再開されます。

運用データの管理

運用データの管理

バックアップやリストアなど、運用データの管理を行います。

運用データ管理画面はメニュー画面の [運用データ管理] ボタンをクリックすると表示されます。



- ① **【メニュー】 ボタン**
運用データ管理画面を閉じ、メニュー画面に戻ります。
- ② **運用データリスト**
SDメモリーカードやバックアップフォルダにある運用データの一覧を表示します。
- ③ **【開く】 ボタン**
運用データリストで選択した運用データを読み込み、運用データ編集画面を開きます。
- ④ **【バックアップ】 ボタン**
運用データのコピーをバックアップフォルダに作成します。
- ⑤ **【リストア】 ボタン**
運用データをSDメモリーカードに保存します。
- ⑥ **【名称変更】 ボタン**
運用データの名称を変更します。
- ⑦ **【削除】 ボタン**
運用データを削除します。

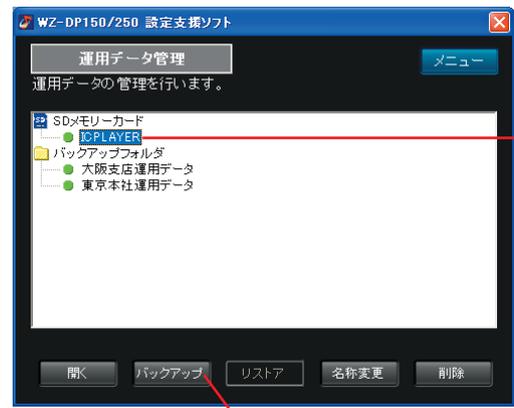
●運用データのバックアップ

選択した運用データをバックアップフォルダにコピーします。使用している運用データをPCにバックアップしておけば、誤って運用データを削除しても復旧ができます。

操作手順

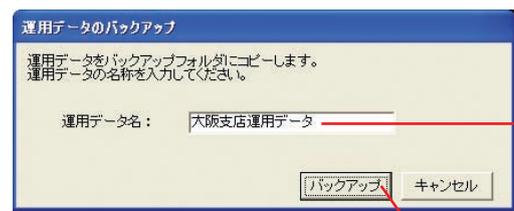
1 バックアップする運用データを選択し、[バックアップ] ボタンをクリックする。

運用データのバックアップ画面が表示されます。



2 運用データ名を入力し、[バックアップ] ボタンをクリックする。

バックアップが開始され、バックアップフォルダに選択した運用データのコピーが作成されます。



- バックアップには数分かかることがあります。

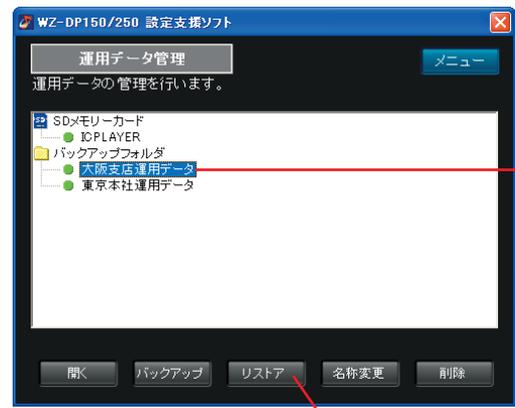
●運用データのリストア

バックアップフォルダにある運用データをSDメモリーカードにリストアします。SDメモリーカードにリストアした運用データは、本体にSDメモリーカードを差し込むだけで自動的に実行されます。

操作手順

1 リストアする運用データを選択し、[リストア] ボタンをクリックする

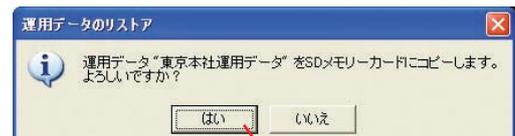
リストア確認画面が表示されます。



2 [はい] ボタンをクリックする

リストアが開始されます。

リストアを中止する場合は [いいえ] ボタンをクリックします。



- SDメモリーカード上に運用データがある場合に保存すると、バックアップ確認画面が表示されます。[はい] を選択するとリストアを実行する前に運用データをバックアップします。[いいえ] を選択するとSDメモリーカード上の運用データを削除してからリストアします。
- リストアには数分かかることがあります。

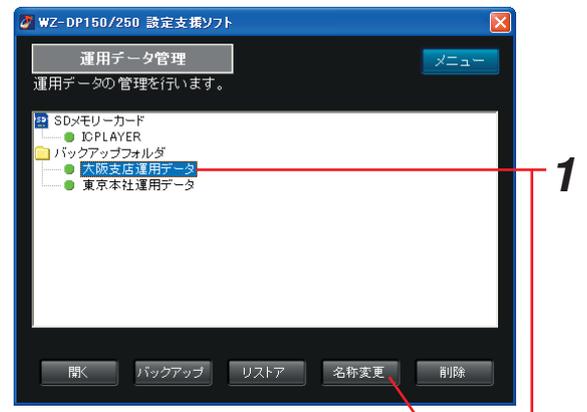
●運用データの名称変更

運用データの名称を変更できます。

操作手順

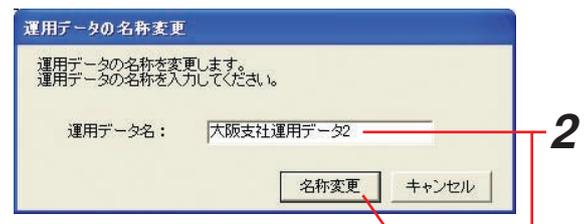
1 名称変更する運用データを選択し、[名称変更] ボタンをクリックする

運用データの名称変更画面が表示されます。



2 運用データ名を入力し、[名称変更] ボタンをクリックする

選択した運用データの名称が変更されます。
名称変更を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。



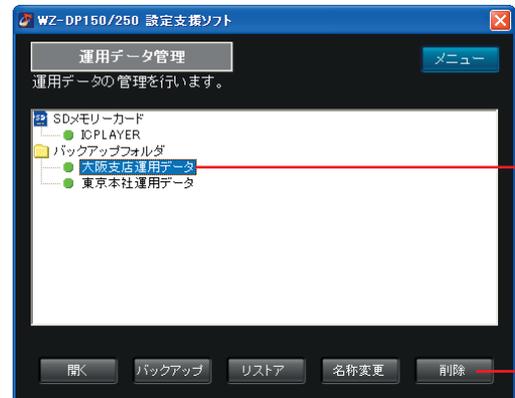
●運用データの削除

運用データを削除できます。

操作手順

1 削除する運用データを選択し、[削除] ボタンをクリックする

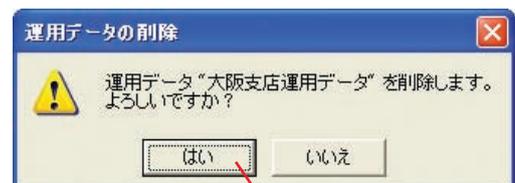
運用データの削除確認画面が表示されます。



2 [はい] ボタンをクリックする

選択した運用データが削除されます。

削除を中止する場合は [いいえ] ボタンをクリックします。



本体でバックアップした運用データのリストア方法について

- ・本体でSDメモリーカードにバックアップした運用データをリストア（書き戻し）し、再び本体で実行することができます。
- ・以下に本体でバックアップした運用データのリストア方法を説明します。

操作手順

1 設定支援ソフトを起動する

設定支援ソフトが起動し、メニュー画面が表示されます。

2 「運用データ管理」ボタンをクリックする

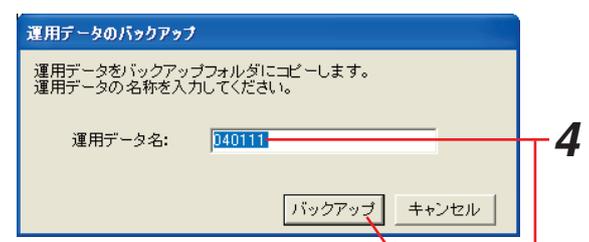
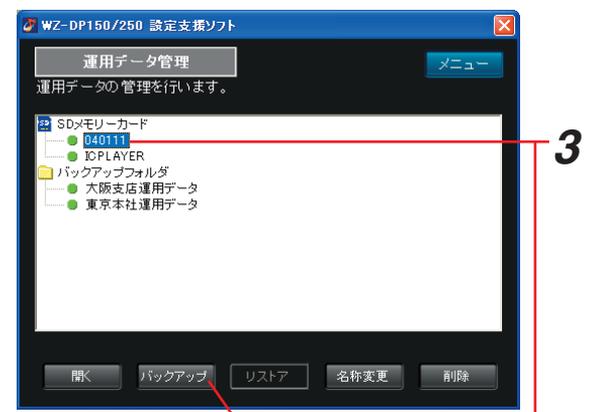
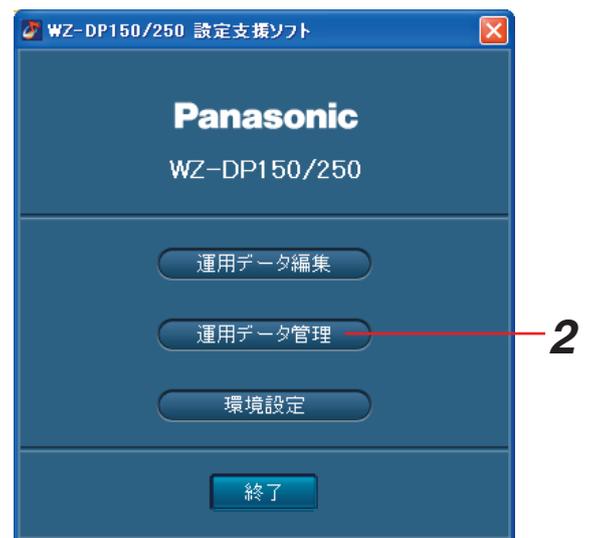
メニュー画面が閉じ、運用データ管理画面が表示されます。

3 SDメモリーカードのリストアする運用データを選択し、[バックアップ] ボタンをクリックする

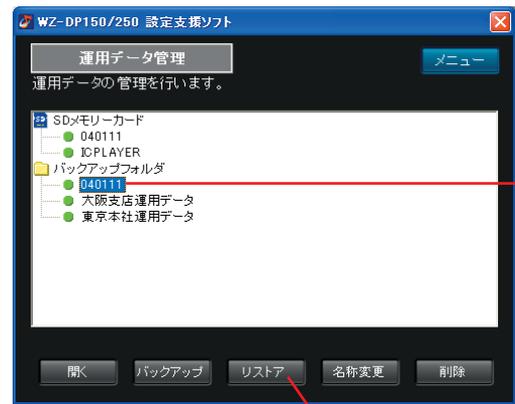
運用データのバックアップ画面が表示されます。

4 運用データ名を入力し、[バックアップ] ボタンをクリックする

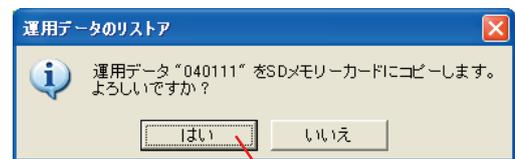
選択したSDメモリーカードの運用データをPCのバックアップフォルダにバックアップします。



- 5** バックアップフォルダにバックアップした運用データを選択し、[リストア] ボタンをクリックする
リストア確認画面が表示されます。

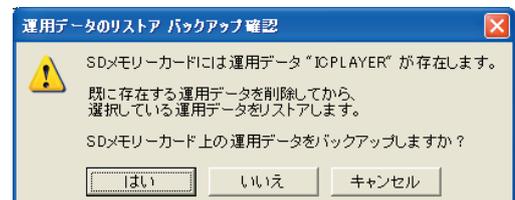


- 6** [はい] ボタンをクリックする
選択した運用データがSDメモリーカードの運用データ「ICPLAYER」にコピーされます。
SDメモリーカードを本体で読み込むと、運用データ「ICPLAYER」が本体で実行されます。



- 重要** ● リストアを実行すると、選択した運用データでSDメモリーカード上の運用データ「ICPLAYER」が、上書きされます。

- メモ** ● SDメモリーカード上にすでに「ICPLAYER」が存在する場合はバックアップ確認画面が表示されます。リストアの前にSDメモリーカード上の「ICPLAYER」をバックアップする場合は[はい]ボタンをクリックしてください。



設定情報やメッセージの合計サイズの確認方法について

- ・ 設定支援ソフトで本体の内蔵メモリーに書き込まれる設定情報やメッセージの合計サイズを確認することができます。
- ・ 本体の内蔵メモリーには設定情報およびメッセージを合計して最大8MBまで書き込むことができます。
- ・ 以下に、設定支援ソフトで本体の内蔵メモリーで使用している容量を設定情報やメッセージの合計サイズを確認する方法について説明します。本体の内蔵メモリーに保存された設定情報やメッセージの合計サイズを確認する場合は、事前に本体で「運用データのセーブ」を実行して、設定情報やメッセージをSDメモリーカードに書き出してください。

操作手順

1 設定支援ソフトを起動する

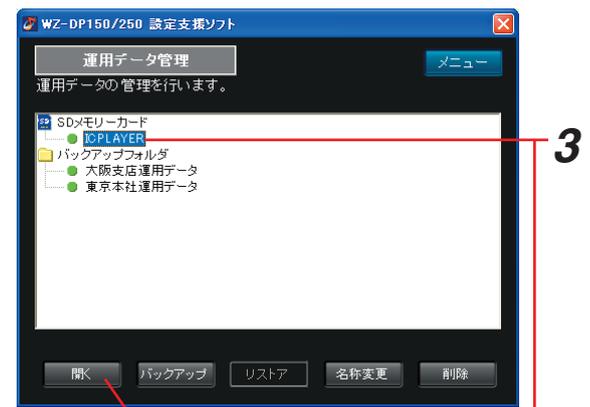
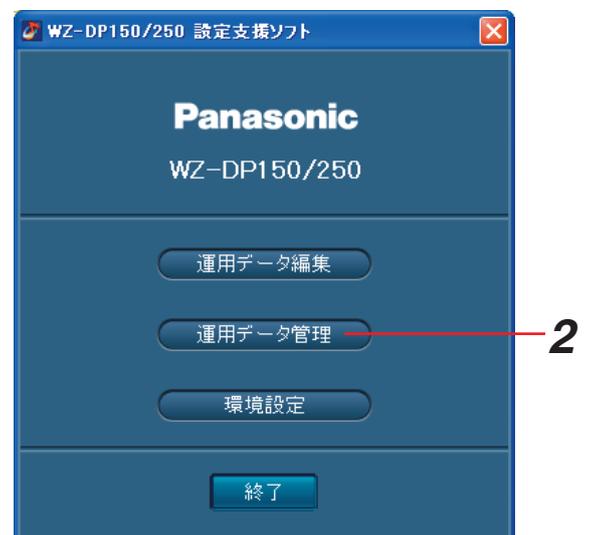
設定支援ソフトが起動し、メニュー画面が表示されます。

2 「運用データ管理」ボタンをクリックする

メニュー画面が閉じ、運用データ管理画面が表示されます。

3 SDメモリーカードの [ICPLAYER] を選択し、 【開く】ボタンをクリックする

SDメモリーカードから運用データを読み込み、運用データ編集画面が表示されます。



4 内蔵メモリの合計サイズを確認する

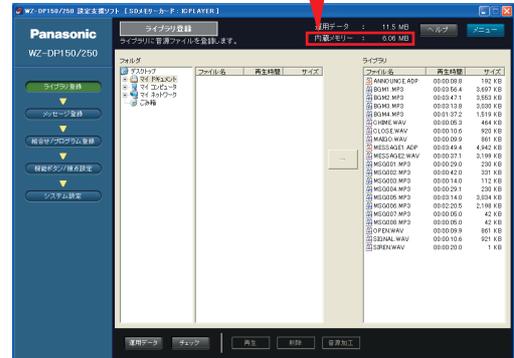
運用データ編集画面で内蔵メモリの合計サイズを確認します。



- 内蔵メモリの合計サイズが8MBを超えた場合は赤文字で表示されます。この場合は内蔵メモリに登録しているメッセージを削除して内蔵メモリの合計サイズを減らしてください。メッセージを削除する方法は、「メッセージのクリア」(39ページ)を参照してください。

内蔵メモリ : 10.2 MB

内蔵メモリ : 6.06 MB



付録

音源ファイルについて

本体および設定支援ソフトではWAVファイル、ADPファイル、MP3ファイルを扱うことができます。
本体および設定支援ソフトで有する機能と音源ファイルの対応表は下記のとおりです。

拡張子	項目	内容	本体		設定支援ソフト			
			録音	再生	メッセージ登録	再生	モード変換	トリミング
WAV (高音質)	サンプリング周波数	44.1 kHz	●	●	●	●	●	●
	オーディオサンプルサイズ	16 bit						
	チャンネル	モノラル						
WAV	サンプリング周波数	24 kHz	×	×	×	●	●	●
	オーディオサンプルサイズ	16 bit						
	チャンネル	モノラル						
ADP (標準)	サンプリング周波数	44.1 kHz	●	●	●	●	●	●
	オーディオサンプルサイズ	4 bit						
	チャンネル	モノラル						
ADP (エコノミー)	サンプリング周波数	24 kHz	●	●	●	●	●	●
	オーディオサンプルサイズ	5 bit						
	チャンネル	モノラル						
MP3※	ビットレート	128 kbps	×	●	●	●	×	×
	チャンネル	ステレオ						
MP3※	ビットレート	64 kbps	×	●	●	●	×	×
	チャンネル	モノラル						

※ID3V2.4には対応していません。

故障かな!?

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
運用データが保存できない	<ul style="list-style-type: none">● 保存先ドライブやフォルダが書き込み保護設定になっていないことを確認してください。● 保存先ドライブの空き容量が十分であるか確認してください。● SDメモリーカードリーダーライターが接続されていることを確認してください。	—
メッセージに音源ファイルを登録できない	<ul style="list-style-type: none">● 音源ファイルがメッセージに登録可能な形式であることを確認してください。● メッセージに登録できる音源ファイルはファイル名が英数字の8.3形式（ベース名8文字、拡張子3文字）のファイルです。	36
音源ファイルやメッセージのモード変換ができない	<ul style="list-style-type: none">● 音源ファイルやメッセージがモード変換可能な形式であることを確認してください。● ご使用のPCのMicrosoft DirectXが最新バージョンであることを確認してください。	57
再生している音源が聞こえない	<ul style="list-style-type: none">● スピーカー接続されていることを確認してください。● PCのボリューム設定が適切か確認してください。	—
設定支援ソフトで作成した運用データを本体で読み込めない	<ul style="list-style-type: none">● 本体でSDメモリーカードをフォーマットしてから、運用データをSDメモリーカードに保存してください。	—

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル

パナハ ヨイフ

 **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社および関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくために、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WZ-DP150, WZ-DP250
	販売店名	電話（	）	－		

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号